

日本における女子大学 70 年の変遷 —組織の変化を中心に—

70 Years' Progress of Women's Universities and Colleges in Japan :
Focusing on Institutional Changes

安 東 由 則*

ANDO, Yoshinori

目次

はじめに

1. 大学・女子大学・短期大学の校数の変化
2. 大学および女子大学の学生数の変化
3. 女子大学の学部数および学問領域の変化
4. 大学院の開設と研究科数の変化
5. 考察

おわりに

*武庫川女子大学文学部教育学科・教授／教育研究所・研究員

はじめに

第二次世界大戦後の新教育制度において、制度的には初めて女性の大学への入学が許可された。例外はあったものの、男性のみであった旧制大学が、新制の下で共学化され、女性に門戸が開かれたと同時に、新たに女子大学が設立され、女性の高等教育を受ける機会は戦前と比べれば格段に大きくなった。

女子大学では、1948年に津田塾、東京女子、日本女子、聖心女子、神戸女学院の5女子大学がお茶の水女子大学をはじめとする国公立の他大学に先駆けて設立が許可されてスタートし（真橋 2012 など）、以後、多くの女子大学が設立されていく。2017年には、女子大学の設立から70年目を迎えるが、特にここ四半世紀においては、共学化の波にさらされ、学生募集が厳しくなっている大学もあり、男女共同参画社会の中でその存立意義を問われている。女子大学は、女子のみの大学であるがゆえに、意識的であれ無意識的であれ、常にその存立意義を問い続けながら、今日まで発展してきたのであり、2016年度現在、77校が存在する¹⁾。

本稿は、女子大学の70年を振り返り、大きく社会情勢が変わってきた中で女子大学がどのような変化を遂げ、社会や女子学生のどのようなニーズに応え、発展してきたのかを、主として量的な側面から明らかにすることを目的とする。具体的には、女子大学数、女子大学の学生数、学部数及び学部の学問領域、大学院及び研究科数の変化を経年で比較していくことにより、変化の実態を把握する。さらにその社会的要因との関係を探ることで、女子大学がどのようにして生き残りを図り、さらなる発展を遂げようとしてきたのかを明らかにする。但し、データ及び紙面の都合上、大きな変化が生じた1990年以降に限定して比較する項目もある。大学個別の事例分析などは行っておらず、量的データによって捉えられることは、女子大学の一面でしかないことは承知しているが、客観的データを示し、その変化を振り返って吟味することは、女子大学が社会の中でのその存在意義をどう捉え、発展・変容してきたのかを示すこととなる。今後の女子大学の在り方について考える基礎資料としたい。

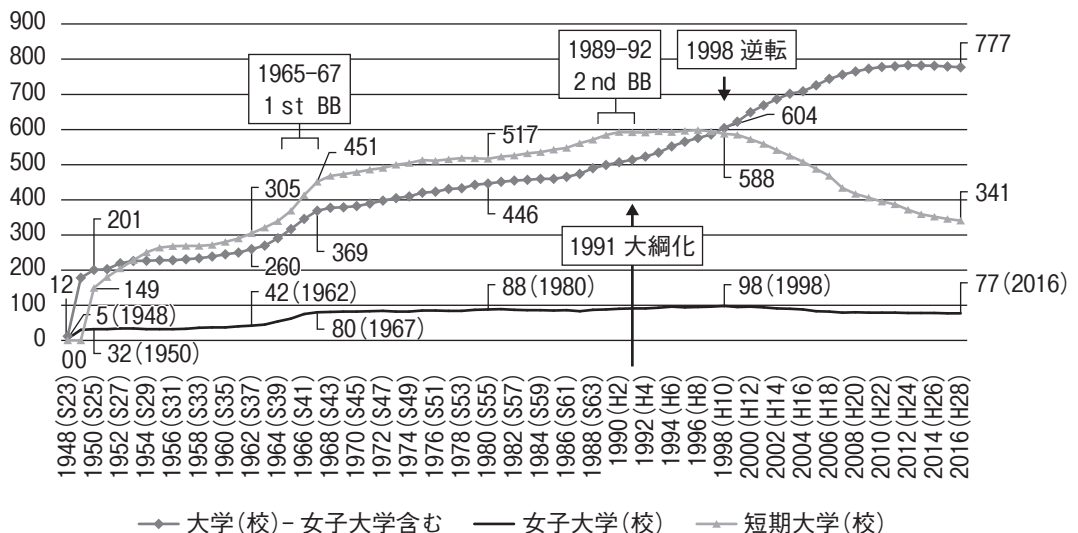
1. 大学・女子大学・短期大学の校数の変化

2016年度時点で、女子大学は国立（国立大学法人）2校、公立（公立大学法人含）2校、私立73校の77校であり、全大学数777校の約10%である。先進諸国の中で女子大学が存在する国はごく少数に過ぎない。その一つであるアメリカでは、4年制大学3,011校²⁾中、39校³⁾（Women's College Coalition HP）であり、もう一つの韓国においては、226校（Cyber Universityなどを含）中、7校が女子大学であるにすぎず⁴⁾、日本の女子大学比率は非常に高いことが分かる。

図1は4年制大学、女子大学、短期大学の数の経年変化を表したものである。新制度発足直後を除けば、1960年代半ばにいずれも大きく増加している。これは第一次ベビーブーマーたちが大学入学期を迎え、大学進学者・大学数ともに大きく伸びた時期でもある。その後、文部省が大学抑制策へと舵を切ったため、大学、短大ともに漸増するものの、四半世紀近く大きな伸びはなかった。そうした流れが大きな転換期を迎えるのが1990年前後からである。第二次ベビーブーマーの大学進学が1989～1992年にピークを迎えるため、文部省はこれまで抑制していた大学入学定員の臨時的な増加を認め、1991年には大学設置基準の“大綱化”に大きく舵を切った。大学の自由裁量を重視し、事前審査から事後評価に切り替えたので、大学や新学部を設置、学部改変が一挙に進んでいくことになる。2010年代に入って大学の新設は落ち着くが、それまで20年間にわたり、大学数は私立を中心に大きく増え続けた。これに対し、短大は1990年代には頭打ちとなり、2000年頃から急速に減少していく。第二次ベビーブーマーのピークが過ぎ急速な減少期に入るとともに、4年制大学が大幅に増加し、短大の主たるターゲットであった女子生徒の4年制志向が強まる中、短大は4年制に転換する、吸収・合併される、あるいは閉鎖されたりしていった。

女子大学はというと、1960年代に32校（1960）から82校（1969）へと2.5倍に増加

図1. 4年制大学・女子大学・短期大学数の推移（S23-H28）



注：女子大学数の後の（ ）内数字は西暦年。図中の大学および短大の数も同一年のもの。短大は1950年以降。BBは“Baby Boom”の略。

出典：大学数と短大数は、文部科学省『学校基本調査』『年次統計』の「総括表1学校数」（政府統計の窓口）。

女子大学数は、著者ら作成の「女子大学統計・大学基礎統計」（武庫川女子大学教育研究所HP）。

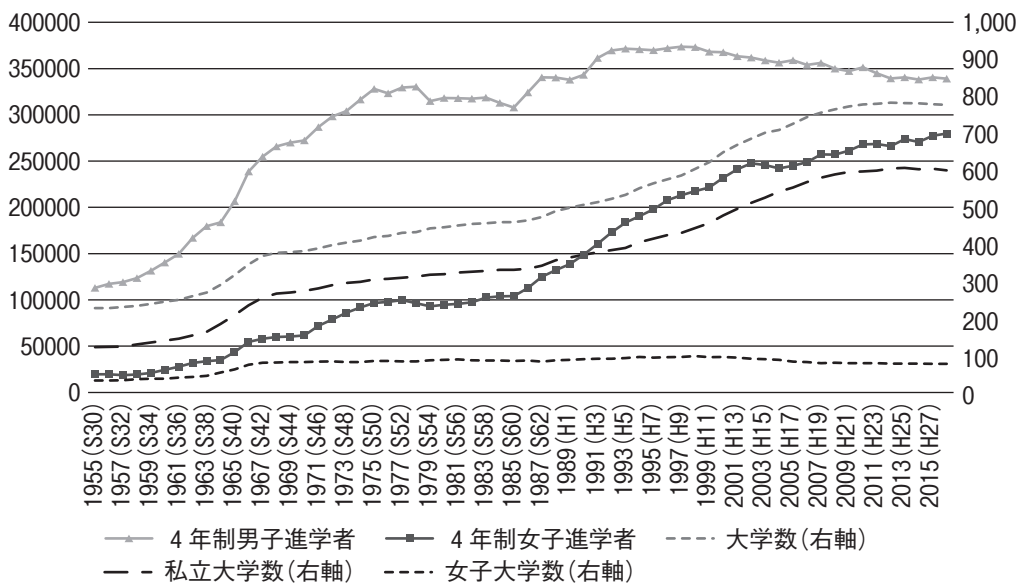
したが、1970年代以降、共学大や短大と同様にそのペースは大きく落ちるものの漸増していき、1970年に82校、1990年に90校、1998年には98校となって、数の上でピークを迎えた。共学化する大学もあったものの、増加した要因は、女子のみが多い短期大学が4年制に転換、あるいは4年制を併設する際、女子大学となったためである。それ以降も4年制大学は増加し続けたのに対し、女子大学は漸減していき、現在（2016）はピークから21校減って、77大学にまで減少した。女子大学の場合、短期大学ほど増減の振れは大きくないが、短大と類似した増減のパターンを示している。

2. 大学および女子大学の学生数の変化

(1) 4年制大学全体の傾向

まず、4年制大学における男女それぞれの学生数の変化を概観する（図2）。バブル経済期の1986年に男女雇用機会均等法が施行された頃より、女性の4年制大学進学が急速に増加している。それ以前において、女性の4年制大学進学者は男性の3分の1以下に過ぎなかった。あとで見るように、女子大学も入学定員を増加させ、ある程度の規模拡大をはかるものの、大幅に伸びた女子学生の進学者を吸収したのは共学大学であった。特に私立共学大学では、社会科学系や新たに設立された学際系の学部で、女性比率が高まって

図2. 男女別4年制大学進学者と大学数の推移（S30～H27）



出典：男女進学者数と私立大学数は文部科学省『学校基本調査』「年次統計」の「総括表（学校種ごと）表10大学の学校数、在籍者数、教職員数」より（政府統計の窓口）。大学数と女子大学数は図1と同じ。

いった。男性の進学者は1990年代にピークを迎え、その後、進学率は漸増するものの少子化の影響で数は減少していったのに比して、女性の4年制大学進学者は少子化の中でも増え続けている。これは、女性の大学進学率（短大を含む）の方が男性より高く、女性の進学先が短大から4年制へと大きくシフトしていることによる。しかしながら、先進国における4年制大学進学者では、アメリカをはじめ女性の方が男性より高くなっている国が多いが、日本ではまだ男性の方が上回っているのが現状である⁵⁾。

(2) 女子大学の学生数推移

女子大学の学生規模は、一般に小規模であり、それ故に教員と学生の距離が近く、家庭的であるとのイメージも強いが、その実態はどうか。ここでは、女子大学の学生規模の拡大過程を確認する。

表1は、1960年、1969年、1993年、2015年の4時点における全女子大学を地域別に並べ、大学ごとに学生数と前の時期との学生比率を示したものである。4時点を設定したのは、次のような基準からである。1960年と1969年は、共学と同様、女子大学も急増した時期で第一次ベビーブーマーを挟んで大学進学率及び進学者が大きく伸びた60年代の初めと終わりであり、その変化を確認するために取り上げた。1993年は、1970年代・80年代と大学進学率が停滞した後、1991年に大学設置基準大綱化が始まる頃より大学進学率は上昇し始め、第二次ベビーブーマーが在籍して学生数が大きく増加した時期である。さらに、18歳人口が減少に転じ、大学数と大学進学者の増加が落ち着いた2015年を設定した。表1には、この表に掲載している女子大学が、1969年と2015年の両時点で、短期大学を併設していたか否かも示している。4年制大学創設前に前身として短大があったか否か、4年制大学設立後、あるいは4年制志向が強くなる中で短大を吸収・閉鎖したかを確認するためである。表2は、同じ4時点の女子大学数、学生数、一校平均などの記述統計を設置者別にまとめて示し、表3は4時点における全ての大学数と設置者ごとの1校当たり学生平均、全学生及び全女子学生を分母とした女子大学在籍学生の比率を示している。なお、ここに取り上げているものは、4時点で女子大学であった大学のみであり、この間に設立されて後共学化した女子大学は含まれない。よって、以下の議論は、ある程度限定されたものとなっていることを述べておく。

学生数の検討に先立ち、女子大学の短期大学の併設状況を確認しておく（表1）。ここに掲載された106校（私立のみ）のうち、1969年時点で短期大学であったか、短期大学を併設していた女子大学は、実に89校（84.0%）に上る。1993年には多くの4年制女子大学が開設されているが、それらの多くは短大を基盤として、4年制を新たに設立した場合が多かった。それが、18歳人口の減少が加速し、4年制志向が強まる1990年代より短大は頭打ちとなり、2000年前後から短大の閉鎖、あるいは短大から4年制への転換が

徐々に進行していく。短大を併設する4年制大学では、閉鎖・縮小した短大定員を4年制に吸収するなどして、4年制の定員を増やした。

次に表1～3を併せて用い、4時点における私立女子大学学生数の変化を中心に比較検討する。まず1960年時点で最大の学生数は日本女子の2,385名、続いて京都女子の2,077名で、2,000名以上はこの2校にすぎない。1,000名以上2,000名未満の女子大は5校、その他は1,000名未満と小規模である。完成年度を迎えていないなど、4学年が揃っていない大学を除いて学生数平均をとると、私立では765名となり、1学年200名以下の小規模な大学が多い(表2)。表3に示すように、この時点の私立大学全体の平均(女子大学を含)は2,820名であるから、女子大学はおよそ4分の1強の規模である。男性を含む全学生の中で女子大学学生の占める割合は4.3%、私立大学に限定すると女子大学学生比率は5.2%、公立のみでは2倍の10.6%を占める。女子学生全体に占める女子大学学生比率は、全体で31.0%であった。設置者別に見ると、女子大学が2校しかない国立の比率は7.1%で、女子学生の14人に1人が女子大学の学生となる。公立の比率が最も高く、過半数の54.3%となった。最も学生数が多い私立では、校数では20%弱を占めるに過ぎない女子大学が、全女子学生の42.9%と4割以上を占めており、女子の進学先が女子大学に大きく偏っていた(表3)。

第一次ベビーブーマーが在籍し、大学進学率も上昇してきた1969年には、全体の学生数は1960年の2.2倍になった(表3)。私立女子大学数も27校が72校へと大幅に増加したが、学生数の一校平均は765名から825名へと微増した(7.8%)にとどまり、女子大学の平均学生数はそれほど増えていない。その理由として、この間の新たに誕生した女子大学の学生数が500名未満といった小規模なものが多かったということが挙げられる(表1)。1960年にすでに開設されていた大学のみ限定し、1960年の学生数と1969年のそれを比較すると、私立27校中、5倍を超えた大学が2校、2倍以上となると11校を数え、その倍率の平均は2.3倍となる。大学急増期(1960年代)前に設立された女子大学は、その学生規模を少なからず増やし、ほとんどが1,000名以上になっている。例えば、東京の大妻女子は287名が1,081名、共立女子は1,233名が2,405名に、名古屋の金城学院は276名から1,383名に、関西では大阪樟蔭が669名から1,627名に、武庫川女子は922名から2,266名へと拡大した。この時点でも最大の学生数は、日本女子の3,519名である。私立大全体では2,820名から3,633名へと1.3倍に増加したのに比して(表3)、私立女子大学の平均は既述の通り765名から825名へと1.08倍増にとどまっており、女子大学全体では、増加のペースは緩やかであった。全学生に占める女子大学学生の比率は5.1%、全私立大学学生数に占める比率は6.1%で、1960年よりも1%弱上昇した。これに対し、全女子学生に占める女子大学学生比率は28.0%、私立大学に限れば34.5%となり、1960年に比べて若干低下している。特に私立では、42.9%から34.5%へと8.4

表 1. 女子大学の学生数推移 (1960 ~ 1993 年)

| 設置 地域 | 大学名 | 1960年5月 | | 1969年5月 | | | 1993年5月 | | | 2015年5月 | | | | | | |
|--------|---------------|---------|-------|-----------|-------|------|---------|-----------|-------------|---------|--------|----------|-------|-------|------|------|
| | | 学生数 | 1960比 | 学生数 | 1969比 | 短大有無 | 閉鎖年 | 学生数 | 1969比 | 大学名 | 1960比 | 1969比 | 1993比 | | | |
| 国立 東京 | お茶の水女子 | 1,139 | 1.19 | お茶の水女子 | 1,354 | 1.19 | | お茶の水女子 | 2,259 | 1.67 | お茶の水女子 | 2,065 | 1.81 | 1.53 | 0.91 | |
| | 奈良女子 | 943 | 1.11 | 奈良女子 | 1,044 | 1.11 | | 奈良女子 | 2,083 | 2.00 | 奈良女子 | 2,140 | 2.27 | 2.05 | 1.03 | |
| 公立 群馬 | | | | | | | | 群馬女子 | 700 | | 群馬女子 | 993 | | | 1.42 | |
| | 静岡 | | | 静岡女子 | 309 | | | 静岡県立(共学化) | | | 静岡県立 | | | | | |
| | 愛知 | 愛知県立女子 | 521 | 愛知県立女子 ※1 | 132 | 0.25 | | 愛知県立(共学化) | | | 愛知県立 | | | | | |
| | 大阪 | 大阪女子 | 643 | 大阪女子 | 667 | 1.04 | | 大阪女子 | 865 | 1.30 | 大阪府立 | | | | | |
| | 広島 | 広島女子 | | 広島女子 | 939 | | | 広島女子 | 1,029 | 1.10 | 広島県立 | | | | | |
| | 山口 | | | | | | | 山口女子 | 732 | | 山口県立 | | | | | |
| | 高知 | 高知女子 | 572 | 高知女子 | 700 | 1.22 | | 高知女子 | 782 | 1.12 | 高知県立 | | | | | |
| | 福岡 | 福岡女子 | 541 | 福岡女子 | 642 | 1.19 | | 福岡女子 | 754 | 1.17 | 福岡女子 | 1,039 | 1.92 | 1.62 | 1.38 | |
| | 熊本 | 熊本女子 | 623 | 熊本女子 | 984 | 1.58 | | 熊本県立(共学化) | | | 熊本県立 | | | | | |
| 私立 北海道 | | | | 藤女子 | 478 | | ○ × | 2001 | 藤女子 | 882 | 1.85 | 藤女子 | 2,191 | | 4.58 | 2.48 |
| | | | | | | | ○ ○ | | 静修女子 | 307 | | 札幌国際 | | | | |
| 青森 | | | | 東北女子 | 100 | | ○ ○ | | 東北女子 | 662 | 6.62 | 東北女子 | 376 | | 3.76 | 0.57 |
| 宮城 | 宮城学院女子 | 419 | 3.48 | 宮城学院女子 | 1,459 | 3.48 | ○ × | 2001 | 宮城学院女子 | 1,710 | 1.17 | 宮城学院女子 | 2,826 | 6.74 | 1.94 | 1.65 |
| | 三島学園女子(58開校)* | 88 | - | 三島学園 | 331 | - | ○ ○ | | 東北生活文化(共学化) | | | 東北生活文化 | | | | |
| 福島 | | | | 郡山女子 | 176 | | ○ × | 2003 | 郡山女子 | 575 | 3.27 | 仙台白百合女子 | 1,086 | | | |
| 埼玉 | | | | | | | ○ ○ | | | | | 十文字学園女子 | 3,029 | | | |
| 千葉 | 和洋女子 | 348 | 3.32 | 和洋女子 | 1,157 | 3.32 | ○ × | 2006 | 和洋女子 | 1,337 | 1.16 | 和洋女子 | 2,474 | 7.11 | 2.14 | 1.85 |
| | | | | | | | ○ × | 2005 | 川村学園女子 | 1,668 | | 川村学園女子 | 1,127 | | | 0.68 |
| | | | | | | | ○ ○ | | | | | 愛国学園 | 85 | | | |
| | | | | | | | ○ ○ | | | | | 聖徳 | 4,402 | | | |
| 東京 | 上野学園(58開校)* | 268 | - | 上野学園 ※2 | 526 | - | ○ ○ | | 上野学園 | 462 | 0.88 | 上野学園 | | | | |
| | 大妻女子 | 287 | 3.80 | 大妻女子 | 1,091 | 3.80 | ○ ○ | | 大妻女子 | 3,145 | 2.88 | 大妻女子 | 6,658 | 23.20 | 6.10 | 2.12 |
| | 共立女子 | 1,233 | 1.95 | 共立女子 | 2,405 | 1.95 | ○ ○ | | 共立女子 | 4,188 | 1.74 | 共立女子 | 4,701 | 3.81 | 1.95 | 1.12 |
| | 共立薬科 | 600 | 1.15 | 共立薬科 | 690 | 1.15 | ○ ○ | | 共立薬科 | 857 | 1.24 | 慶応義塾(合併) | | | | |
| | 実践女子 | 1,222 | 1.50 | 実践女子 | 1,827 | 1.50 | ○ ○ | | 実践女子 | 3,202 | 1.75 | 実践女子 | 3,964 | 3.24 | 2.17 | 1.24 |
| | 昭和女子 | 1,129 | 1.73 | 昭和女子 | 1,953 | 1.73 | ○ × | 2014 | 昭和女子 | 2,596 | 1.33 | 昭和女子 | 5,449 | 4.83 | 2.79 | 2.10 |
| | 女子美術 | 835 | 1.27 | 女子美術 | 1,058 | 1.27 | ○ ○ | | 女子美術 | 1,754 | 1.66 | 女子美術 | 2,444 | 2.93 | 2.31 | 1.39 |
| | 聖心女子 | 750 | 1.61 | 聖心女子 | 1,206 | 1.61 | ○ ○ | | 聖心女子 | 2,111 | 1.75 | 聖心女子 | 2,192 | 2.92 | 1.82 | 1.04 |
| | 清泉女子 | 170 | 6.05 | 清泉女子 | 1,028 | 6.05 | ○ ○ | | 清泉女子 | 1,610 | 1.57 | 清泉女子 | 1,909 | 11.23 | 1.86 | 1.19 |
| | 津田塾 | 941 | 1.26 | 津田塾 | 1,189 | 1.26 | ○ ○ | | 津田塾 | 2,512 | 2.11 | 津田塾 | 2,710 | 2.88 | 2.28 | 1.08 |
| | 東京家政 | 272 | 4.08 | 東京家政 | 1,109 | 4.08 | ○ ○ | | 東京家政 | 3,998 | 3.61 | 東京家政 | 5,867 | 21.57 | 5.29 | 1.47 |
| | 東京女子 | 1,095 | 1.81 | 東京女子 | 1,978 | 1.81 | ○ × | 1992 | 東京女子 | 3,811 | 1.93 | 東京女子 | 3,917 | 3.58 | 1.98 | 1.03 |
| | 東京女子医科 | 321 | 1.59 | 東京女子医科 | 509 | 1.59 | ○ × | 2001 | 東京女子医科 | 606 | 1.19 | 東京女子医科 | 1,027 | 3.20 | 2.02 | 1.69 |
| | 日本女子 | 2,385 | 1.48 | 日本女子 | 3,519 | 1.48 | ○ ○ | | 日本女子 | 6,102 | 1.73 | 日本女子 | 6,267 | 2.63 | 1.78 | 1.03 |
| | 跡見女子 | | | 跡見女子 | 1,381 | | ○ × | 2007 | 跡見女子 | 2,639 | 1.91 | 跡見女子 | 3,901 | | 2.82 | 1.48 |
| | 女子栄養 | 352 | | 女子栄養 | 352 | | ○ ○ | | 女子栄養 | 1,580 | 4.49 | 女子栄養 | 2,002 | | 5.69 | 1.27 |
| | 白百合女子 | 1,248 | | 白百合女子 | 1,248 | | ○ ○ | | 白百合女子 | 1,990 | 1.59 | 白百合女子 | 1,932 | | 1.55 | 0.97 |
| | 杉野女子 | 440 | | 杉野女子 | 440 | | ○ ○ | | 杉野女子 | 665 | 1.51 | 杉野服飾 | | | | |
| | 聖路加看護 | 152 | ※3 | 聖路加看護 | 152 | ※3 | ○ ○ | | 聖路加看護 | 252 | 1.66 | 聖路加看護 | | | | |
| | 東京家政学院 | 621 | | 東京家政学院 | 621 | | ○ × | 2010 | 東京家政学院 | 2,151 | 3.46 | 東京家政学院 | 1,959 | | 3.15 | 0.91 |
| | 東京女子体育 | 955 | | 東京女子体育 | 955 | | ○ ○ | | 東京女子体育 | 1,491 | 1.56 | 東京女子体育 | 1,563 | | 1.64 | 1.05 |
| | 日本女子体育 | 380 | | 日本女子体育 | 380 | | ○ × | 2000 | 日本女子体育 | 1,784 | 4.69 | 日本女子体育 | 2,169 | | 5.71 | 1.22 |
| | 文化女子 | 647 | | 文化女子 | 647 | | ○ ○ | | 文化女子 | 2,899 | 4.48 | 文化学園 | | | | |
| | 武蔵野女子 | 1,026 | | 武蔵野女子 | 1,026 | | ○ × | 2006 | 武蔵野女子 | 1,604 | 1.56 | 武蔵野 | | | | |
| | | | | | | | ○ × | 2014 | 文京女子 | 1,161 | | 文京学院 | | | | |
| | | | | | | | ○ × | 2005 | 恵泉女学園 | 900 | | 恵泉女学園 | 1,420 | | | 1.58 |
| | | | | | | | ○ ○ | | 駒沢女子(93開校)* | 210 | | 駒沢女子 | 1,883 | | | - |
| | | | | | | | ○ × | 1998* | | | | 学習院女子 | 1,687 | | | |
| 神奈川 | 京浜女子(59開校)* | 57 | - | 京浜女子 | 441 | - | ○ ○ | | 鎌倉女子←京浜女子 | 1,099 | 2.49 | 鎌倉女子 | 2,410 | - | 5.46 | 2.19 |
| | 相模女子 | 249 | 3.89 | 相模女子 | 969 | 3.89 | ○ ○ | | 相模女子 | 1,666 | 1.72 | 相模女子 | 3,007 | 12.08 | 3.10 | 1.80 |
| | 鶴見女子 | | | 鶴見女子 | 74 | | ○ ○ | | 鶴見(共学化) | | | 鶴見 | | | | |
| | フェリス女学院 | 724 | | フェリス女学院 | 724 | | ○ × | 1990 | フェリス女学院 | 2,128 | 2.94 | フェリス女学院 | 2,589 | | 3.58 | 1.22 |
| | | | | | | | ○ × | 1999 | 東洋英和女学院 | 1,520 | | 東洋英和女学院 | 2,331 | | | 1.53 |

注：表中の※印は、次のことを示す。

※1：1966年に共学化し、1969年の数字は共学化前の女子大に入学した在学生数。

※2：1958年の開学に伴い、59年に短期大学を閉鎖したが、1966年に短期大学を再設置。

※3：1964年に3制制短大から4年制へ移行。

| 設置地域 | 1960年5月 | | 1969年5月 | | 1969 2015 | | 1993年5月 | | 2015年5月 | | | | | | |
|-------|------------|-------|-------------|-------|-----------|------|---------|----------------|---------|-------|---------------|-------|-------|-------|------|
| | 大学名 | 学生数 | 大学名 | 学生数 | 1960比 | 短大有無 | 閉鎖年 | 大学名 | 学生数 | 1969比 | 学生数 | 1960比 | 1969比 | 1993比 | |
| 私立 長野 | | | | | | | | | | | 清泉女学院 | 254 | | | |
| 石川 | | | | | | ○ | ○ | 金沢女子 | 954 | | 金沢学院 | | | | |
| 岐阜 | | | 岐阜女子(68開設)* | 20 ※4 | | ○ | ○ | 岐阜女子 | 1,300 | - | 岐阜女子 | 1,047 | | 0.81 | |
| | | | 中京女子 | 559 | | ○ | ○ | 中京女子 | 941 | 1.68 | 至学館 | | | | |
| | | | | | | ○ | × | 2005 東海女子 | 1,381 | | 東海学院 | | | | |
| 愛知 | 金城学院 | 276 | 金城学院 | 1,383 | 5.01 | ○ | × | 2004 金城学院 | 2,429 | 1.76 | 金城学院 | 5,366 | 19.44 | 3.88 | 2.21 |
| | 椋山女学園 | 301 | 椋山女学園 | 946 | 3.14 | ○ | × | 2001 椋山女学園 | 4,059 | 4.29 | 椋山女学園 | 5,820 | 19.34 | 6.15 | 1.43 |
| | | | 名古屋女子 | 367 | | ○ | ○ | 名古屋女子 | 1,910 | 5.20 | 名古屋女子 | 2,281 | | 6.22 | 1.19 |
| | | | 安城学園 | 68 | | ○ | ○ | 愛知学泉(安城学園・共学化) | | | 愛知学泉 | | | | |
| | | | | | | ○ | × | 2002 愛知淑徳 | 2,726 | | 愛知淑徳 | | | | |
| | | | | | | ○ | ○ | | | | 桜花学園 | 736 | | | |
| | | | | | | ○ | ○ | | | | 岡崎女子(2013開学)* | 207 | | | |
| 京都 | 京都女子 | 2,077 | 京都女子 | 2,144 | 1.03 | ○ | × | 2010 京都女子 | 3,623 | 1.69 | 京都女子 | 6,245 | 3.01 | 2.91 | 1.72 |
| | 同志社女子 | 1,432 | 同志社女子 | 2,361 | 1.65 ※5 | ○ | × | 2003 同志社女子 | 3,607 | 1.53 | 同志社女子 | 6,507 | 4.54 | 2.76 | 1.80 |
| | | | 光華女子 | 545 | | ○ | ○ | 光華女子 | 1,127 | 2.07 | 京都光華女子 | 1,735 | | 3.18 | 1.54 |
| | | | 橘女子 | 230 | | ○ | ○ | 京都橘女子←橘女子 | 1,744 | 7.58 | 京都橘 | | | | |
| | | | ノートルダム女子 | 670 | | ○ | ○ | ノートルダム女子 | 1,268 | 1.89 | 京都ノートルダム女子 | 1,247 | | 1.86 | 0.98 |
| | | | | | | ○ | ○ | | | | 京都華頂 | 354 | | | |
| | | | | | | ○ | ○ | | | | 平安女学院 | 484 | | | |
| 大阪 | 大阪樟蔭女子 | 669 | 大阪樟蔭女子 | 1,627 | 2.43 ※6 | ○ | × | 2012* 大阪樟蔭女子 | 2,000 | 1.23 | 大阪樟蔭女子 | 2,317 | 3.46 | 1.42 | 1.16 |
| | 相愛女子 | 149 | 相愛女子 | 293 | 1.97 | ○ | × | 2008* 相愛(共学化) | | | 相愛 | | | | |
| | | | 大谷女子 | 516 | | ○ | × | 2012 大谷女子 | 2,495 | 4.84 | 大阪大谷 | | | | |
| | | | 四天王寺女子 | 160 | | ○ | ○ | 四天王寺国際仏教(共学) | | | 四天王寺 | | | | |
| | | | 帝国女子 | 181 | | ○ | ○ | 大阪国際女子←帝国女子 | 611 | 3.38 | 大阪国際 | | | | |
| | | | 帝塚山学院 | 583 | | ○ | × | 1999 帝塚山学院 | 2,097 | 3.60 | 帝塚山学院 | | | | |
| | | | 梅花女子 | 1,114 | | ○ | ○ | 梅花女子 | 2,124 | 1.91 | 梅花女子 | 1,694 | | 1.52 | 0.80 |
| | | | | | | ○ | ○ | | | | 大阪女学院 | 498 | | | |
| | | | | | | ○ | × | 2011 | | | 千里金蘭 | 902 | | | |
| 兵庫 | 神戸女学院 | 983 | 神戸女学院 | 1,385 | 1.41 | | | 神戸女学院 | 2,332 | 1.68 | 神戸女学院 | 2,567 | 2.61 | 1.85 | 1.10 |
| | 神戸女子薬科 | 659 | 神戸女子薬科 | 1,076 | 1.63 | | | 神戸女子薬科 | 1,274 | 1.18 | 神戸薬科 | | | | |
| | 武庫川女子 | 922 | 武庫川女子 | 2,266 | 2.46 | ○ | ○ | 武庫川女子 | 5,258 | 2.32 | 武庫川女子 | 8,455 | 9.17 | 3.73 | 1.61 |
| | | | 大手前女子 | 196 | | ○ | ○ | 大手前女子 | 2,599 | 13.26 | 大手前 | | | | |
| | | | 甲南女子 | 905 | | ○ | × | 2002 甲南女子 | 3,700 | 4.09 | 甲南女子 | 4,074 | | 4.50 | 1.10 |
| | | | 神戸海星女子 | 349 | | ○ | × | 2007 神戸海星女子 | 569 | 1.63 | 神戸海星女子 | 317 | | 0.91 | 0.56 |
| | | | 神戸女子 '66 | 299 | | ○ | ○ | 神戸女子 | 3,325 | 11.12 | 神戸女子 | 3,312 | | 11.08 | 1.00 |
| | | | 松蔭女子学院 | 477 | | ○ | × | 2011 松蔭女子学院 | 1,791 | 3.75 | 神戸松蔭女子学院 | 2,164 | | 4.54 | 1.21 |
| | | | 親和女子 | 628 | | ○ | ○ | 親和女子 | 1,839 | 2.93 | 神戸親和女子 | 1,904 | | 3.03 | 1.04 |
| | | | 聖和女子 | 271 | | ○ | ○ | 聖和(共学化) | | | 関西学院(合併) | | | | |
| | | | 園田学園女子 | 174 | | ○ | ○ | 園田学園女子 | 1,394 | 8.01 | 園田学園女子 | 1,555 | | 8.94 | 1.12 |
| 奈良 | | | 帝塚山 | 954 | | ○ | × | 2005 帝塚山(共学化) | | | 帝塚山 | | | | |
| 岡山 | ノートルダム清心女子 | 658 | ノートルダム清心女子 | 1,574 | 2.39 | ○ | × | ノートルダム清心女子 | 2,062 | 1.31 | ノートルダム清心女子 | 2,290 | 3.48 | 1.45 | 1.11 |
| | | | 美作女子 | 103 | | ○ | ○ | 美作女子 | 515 | 5.00 | 美作 | | | | |
| | | | | | | ○ | ○ | 就実女子 | 1,777 | | 就実 | | | | |
| 広島 | 広島女学院 | 270 | 広島女学院 | 405 | 1.50 | ○ | × | 1995 広島女学院 | 1,451 | 3.58 | 広島女学院 | 1,509 | 5.59 | 3.73 | 1.04 |
| | | | 広島文教女子 | 107 | | ○ | × | 2005 広島文教女子 | 1,073 | 10.03 | 広島文教女子 | 1,255 | | 11.73 | 1.17 |
| | | | 安田女子 | 373 | | ○ | ○ | 安田女子 | 1,964 | 5.27 | 安田女子 | 4,115 | | 11.03 | 2.10 |
| 山口 | | | 梅光女学院 | 221 | | ○ | × | 2006 梅光女学院 | 1,032 | 4.67 | 梅光学院 | | | | |
| 徳島 | | | 四国女子 | 110 | | ○ | ○ | 四国(共学化) | | | 四国 | | | | |
| | | | 徳島女子 | 156 | | ○ | ○ | 徳島文理(共学化) | | | 徳島文理 | | | | |
| 愛媛 | | | | | | ○ | ○ | 聖カタリナ女子 | 500 | | 聖カタリナ | | | | |
| | | | | | | ○ | ○ | 松山東雲女子 | 390 | | 松山東雲女子 | 380 | | | 0.97 |
| 福岡 | | | 九州女子 | 426 | | ○ | ○ | 九州女子 | 1,079 | 2.53 | 九州女子 | 1,362 | | 3.20 | 1.26 |
| | | | | | | ○ | ○ | 西南女学院 | データなし | | 西南女学院 | 1,618 | | | |
| | | | | | | ○ | × | 2016 筑紫女学園 | 836 | | 筑紫女学園 | 2,487 | | | 2.97 |
| | | | | | | ○ | ○ | 福岡女学院 | 991 | | 福岡女学院 | 2,106 | | | 2.13 |
| | | | | | | ○ | ○ | | | | 福岡女学院看護 | 437 | | | |
| 長崎 | | | | | | ○ | × | 2005 活水女子 | 681 | | 活水女子 | 1,291 | | | 1.90 |
| | | | | | | ○ | × | 2006 長崎純心 | データなし | | 長崎純心 | | | | |
| 鹿児島 | | | | | | ○ | ○ | 尚綱 | 585 | | 尚綱 | 527 | | | 0.90 |
| | | | | | | ○ | ○ | 鹿児島純心女子 | データなし | | 鹿児島純心女子 | 648 | | | |
| | | | | | | ○ | ○ | 鹿児島女子 | 1,099 | | 志学館←鹿児島女子 | | | | |

※7 ※8

※4. 1968年に創設され、完成年度となっておらず学生数が少ない。よって、1969年度比は算出していない。 ※5. 1986年に短大を開設し、2003年に廃止。
 ※6. 1987年に短大を開設し、2012年に募集を停止。 ※7. 2015年時点で閉鎖したもの、募集停止をしたものに「×」を付している。筑紫女学園短大は2016年閉鎖。
 ※8. 短大「閉鎖年」に「*」のついている年号は、閉鎖ではなく「募集停止」の年。
 その他：1960比、1969比の□(細線四角)は、5倍以上10倍未満。□(太線四角)は10倍以上を示す。1993年比については、2倍以上に下線を付した。
 出典：1960年および1969年の学生数は、『全国学校総覧』昭和36年度版、昭和45年度版による。1993年と2017年の学生数は、朝日新聞『大学ランキング』1995年版と2017年版による。
 短期大学の有無については『全国学校総覧』昭和45年版と平成27年度版、短大の廃止や募集停止年については各大学HPと文部科学省HPを参照にした。

表 2. 設置者別に見た女子大学の学生数合計、平均と最大・最小の推移

| 年度 | 設置者 | 校数 | 学生数計 | 平均 | 標準偏差 | 最大 | 最小 |
|----------------|-----|----|---------|-------|---------|-------|-------|
| 1960 (昭和35) | 私立 | 27 | 20,652 | 765 | 554.1 | 2,385 | 149 |
| | 国立 | 2 | 2,082 | 1,041 | 98.0 | 1,139 | 943 |
| | 公立 | 5 | 2,900 | 580 | 46.7 | 643 | 521 |
| | 合計 | 34 | 25,634 | 754 | 504.0 | 2,385 | 149 |
| 1969 (昭和44) | 私立 | 72 | 59,401 | 825 | 685.0 | 3,519 | 68 |
| | 国立 | 2 | 2,398 | 1,199 | 155.0 | 1,354 | 1,044 |
| | 公立 | 6 | 4,241 | 707 | 221.7 | 939 | 309 |
| | 合計 | 80 | 66,040 | 826 | 656.6 | 3,519 | 68 |
| 1993 (平成5) | 私立 | 79 | 145,551 | 1,842 | 1,153.1 | 6,102 | 252 |
| | 国立 | 2 | 4,342 | 2,171 | 88.0 | 2,259 | 2,083 |
| | 公立 | 6 | 4,862 | 810 | 110.4 | 1,029 | 700 |
| | 合計 | 87 | 152,239 | 1,779 | 1,131.5 | 6,102 | 252 |
| 2015 (平成27) | 私立 | 72 | 175,476 | 2,437 | 1,828.6 | 8,455 | 85 |
| | 国立 | 2 | 4,205 | 2,103 | 37.5 | 2,140 | 2,065 |
| | 公立 | 2 | 2,032 | 1,016 | 23.0 | 1,039 | 993 |
| | 合計 | 76 | 181,713 | 2,391 | 1,794.9 | 8,455 | 85 |

注：完成年度に達していない大学（表1の網掛の数字）、データの無い大学は集計から外している。

表 3. 設置者別 4 年制大学の平均学生数と女子学生比率、女子大学学生の比率推移

| | | 私立 | 国立 | 公立 | 総数 |
|----------------|---------------|-----------|---------|---------|-----------|
| 1960 (昭和35) | 全学生数（男子含） | 394,868 | 179,318 | 27,278 | 601,464 |
| | 女子学生数 | 48,108 | 29,198 | 5,345 | 82,651 |
| | 女子大学の学生数 | 20,652 | 2,082 | 2,900 | 25,634 |
| | 大学数 | 140 | 72 | 33 | 245 |
| | 大学平均学生数（男子含） | 2,820 | 2,491 | 827 | 2,455 |
| | 全学生中女子学生比率 | 0.122 | 0.163 | 0.196 | 0.137 |
| | 全学生中女子大学学生比率 | 0.052 | 0.012 | 0.106 | 0.043 |
| | 全女子学生中女子大学生比率 | 0.429 | 0.071 | 0.543 | 0.310 |
| 1969 (昭和44) | 全学生数（男子含） | 980,791 | 269,403 | 45,577 | 1,295,771 |
| | 女子学生数 | 172,322 | 52,280 | 11,464 | 236,066 |
| | 女子大学の学生数 | 59,401 | 4,241 | 2,398 | 66,192 |
| | 大学数 | 270 | 75 | 34 | 379 |
| | 大学平均学生数（男子含） | 3,633 | 3,592 | 1,341 | 3,419 |
| | 全学生中女子学生比率 | 0.176 | 0.194 | 0.252 | 0.182 |
| | 全学生中女子大学学生比率 | 0.061 | 0.016 | 0.053 | 0.051 |
| | 全女子学生中女子大学生比率 | 0.345 | 0.081 | 0.209 | 0.280 |
| 1993 (平成5) | 全学生数（男子含） | 1,688,052 | 455,567 | 65,409 | 2,209,028 |
| | 女子学生数 | 524,013 | 132,250 | 26,855 | 683,118 |
| | 女子大学の学生数 | 146,136 | 4,862 | 4,342 | 152,239 |
| | 大学数 | 390 | 98 | 46 | 534 |
| | 大学平均学生数（男子含） | 4,328 | 4,649 | 1,422 | 4,137 |
| | 全学生中女子学生比率 | 0.310 | 0.290 | 0.411 | 0.309 |
| | 全学生中女子大学学生比率 | 0.087 | 0.011 | 0.066 | 0.069 |
| | 全女子学生中女子大学生比率 | 0.279 | 0.037 | 0.162 | 0.223 |
| 2015 (平成27) | 全学生数（男子含） | 1,980,776 | 445,668 | 129,618 | 2,556,062 |
| | 女子学生数 | 896,687 | 159,778 | 70,907 | 1,127,372 |
| | 女子大学の学生数 | 175,695 | 4,205 | 2,032 | 181,932 |
| | 大学数 | 604 | 86 | 89 | 779 |
| | 大学平均学生数（男子含） | 3,279 | 5,182 | 1,456 | 3,281 |
| | 全学生中女子学生比率 | 0.453 | 0.359 | 0.547 | 0.441 |
| | 全学生中女子大学学生比率 | 0.089 | 0.009 | 0.016 | 0.071 |
| | 全女子学生中女子大学生比率 | 0.196 | 0.026 | 0.029 | 0.161 |

注：表2の女子大学学生数と本表の学生数が異なる。表2の場合、女子大学一校当たりの平均人数を算出するため、完成年度に達していない女子大学の学生数を含まない。これに対して本表では、完成年度を迎えていない女子大学の学生数も含んでいる。（夜間を含む学部学生のみ）

1993年については、学生数を公表していない女子大学が4校あるため（表1参照）、実際の学生数及び占有率はこの表の数字より若干増加する。

出典：大学生数及び大学数は、文部省（文部科学省）『学校基本調査』（各年）より。女子大学の学生については、1960と1963年が『全国学校総覧』、1993年と2015年はアエラ『大学ランキング』（1995年と2017年）による。

ポイント減少したものの、まだ女子学生の3人に1人は女子大学の在学者であった。この期に、公立の女子学生に占める女子大学学生比率は54.3%から20.9%へと大きく減少している。

学生数の増加が最大であったのは、1969年と1993年の間である。他と比して期間が長いこともあるが、第二次ベビーブーマーの入学を受け入れるため、臨時定員増が許可され、設置基準の大綱化が実施されていく中、大学全般の入学定員は膨らみ、学生数は1969年比で1.7倍となった。私立女子大学全体での平均学生数は1,842名となり、2.2倍に増加した。最大は日本女子の6,102名、続いて武庫川女子5,258名、共立女子4,188名、椙山女学園4,059名の4校が4,000名を超え、3,000名超の女子大学は合計12校になった。リベラルアーツを標榜する伝統校の津田塾は1,189名から2,512名に、聖心女子も1,206名から2,111名となり、いずれも2倍前後の規模となって、2,000名を超えた。1969年と1993年の両時点で存在した女子大学のみ限定すると、その比率は3.83倍に跳ね上がっている。この二期間の平均学生数を見ると、私立大学全体が3,633名から4,328名へ1.2倍になったのに対し（表3）、元々小規模であった私立女子は825名が1,842名へと、実に2.2倍となり、共学校に比して大きな増加率であった（表2）。よって、私立大学学生数に占める私立女子大学生数の割合は8.7%となり、1969年比で2.6ポイント程度上昇した⁶⁾。これに対し、私立大学の全女子学生に占める女子大学学生の割合は27.9%（4人に1人強）となり、1969年比で6.6ポイント減少した（表3）。4年制の共学大学に進学する女子の割合が増加したためである。

次の1993年から2015年までの期間では、学生数の伸び率は小さく、全体で1.16倍、私立大学に限っても1.17倍で、最も小さな数字となった。この22年間は、大学にとって非常に大きな変化の時期であり、大学経営は大きな曲がり角を迎えることになる。18歳人口は1989～1992年頃にピークを迎えて後、急速に縮小していく。その一方、大学進学率は50%を超えてユニバーサル段階に突入し、特に女子の高等教育進学者は短大から4年制へと大きくシフトした。これにより、18歳人口の急激な減少にもかかわらず、女子の4年制大学進学者数自体はむしろ微増したのである（図2）。しかしながら、進学率と進学者双方の上昇は大綱化以降の4年制大学の急激な創設によるところが大きく、大学にとっては学生集めが厳しい状況に突入した。

女子大学は1998年に98校（私立は90校）となり、数の上でピークを迎えた。これは、皮肉なことに、女子受験生が短期大学から4年制へとシフトしていき、急速な18歳人口の減少が進行する中で、短期大学が生き残りをかけて4年制女子大学に転換、あるいは併設したことによるものである。2015年に、新たに誕生した女子大学のうち、ほとんどがこれにあたる。決して女子大学人気から、女子大学が増えたわけではない。表には掲載されていないが、この間に短大から女子大学に転換したものの学生が集まらないため

に共学化した大学は 8 校、閉鎖した大学が 2 校ある⁷⁾。ピーク時の 1998 年に女子大学であった 98 大学中、2015 年までに 26 校が共学化した。

学生集めが苦しくなる中で、これまでほどの学生増加率には至らないものの、学生数が 2 倍以上となった大学も 8 校ある。2 倍前後の学生数の伸びがあった大学の中には、併設の短大を閉鎖、あるいは大幅縮小してその定員を大学に振り向けたところが多い。藤女子、昭和女子、金城学院、京都女子、同志社女子、筑紫女学園などの女子大学がこれにあたる。短大の有無にかかわらず、新たな学部を創設するなどして、積極的な大学経営を展開し始めた大学もある。その一方で、1993 年時より学生数を減少させている大学もあり、女子大学の中での分化、淘汰が始まっている。

2015 年における私立大学の平均学生数は 3,279 名となり、1993 年の 4,328 名に比して 1,000 名以上減少し、1969 年よりも低い数字となった。1993 年以降、200 校以上の私立大学が新設されており、1993 年の大学数比で 31.5%、私立に限定すると実に 54.8% の増加率であった。新設大学は、単科大学や短大からの転換など小規模なものが多かったため、平均学生数が大きく落ち込んだ。これに対して、私立女子大学の平均学生数は 1993 年の 1,842 名から 2,437 名へと 1.32 倍になった。女子大学は 10 校以上減少したものの学生数は全体で 175,695 名となって、30,000 人弱増加しており、私立大学全学生数に占める女子大学学生数は 8.9% で、1993 年とほとんど変わらない。私立の女子学生のみに限定すれば 19.6% と低下しているが、これは女子の 4 年制大学進学が大幅に増加したためである。それでも、私大の女子学生の 5 人に 1 人が女子大学に所属していることになる。国立及び公立の場合、女子学生における女子大学の学生占有率は、いずれも 3% 未満となり、特に公立の減少が著しい。

3. 女子大学の学部数および学問領域の変化

本節では、学部数及び学部構成の変化を検討する。各女子大学の学生数が着実に増加する中で、学部数、学部名称を変えることなく学生数を増加させていった大学もあれば、学部を分化したり、新設したりして増やしていった大学もある。各女子大学の経営ポリシー、教育観が如実に現れるのが、どのような学部・学科をつくり、女子学生に提供したかである。社会状況や学生のニーズの変化を解釈し、将来を見据えて、女子大学や女子教育に何が求められているのかを議論・検討した結果が学部の再編であり、新たな学部の創設なのである。

(1) 1990 年までの学部構成

まず私立女子大学に限定し、学部数の推移を概観する。表 4 は 1950 年から 2010 年まで 20 年毎に区切った 4 時点に、直近の 2015 年を加えた 5 時点で、大学ごとに学部数と

学部名を記載した基礎データである。表5は学部数によって大学を分類し、それぞれの大学数とその構成比率を10年毎にまとめている。新制大学ができて3年目の1950年時点では、1学部の単科大学がほとんどで、26大学中24大学(92.3%)が該当する。2学部を擁していたのは日本女子と京都女子の2校に過ぎなかった。学部の種類は、28学部中、「文」が8学部、「学芸」と「家政」がそれぞれ7学部、文と家政を一つにした「文家政」と「薬」がそれぞれ2学部、「英文」と「芸術」が1学部ずつとなる。戦前に女子専門学校であった学校がほとんどであり、新制大学となって後も、「学芸」を含む「人文」学系と「家政」学系から構成されていた。当時の女子への教育期待では、「良妻賢母」や「嫁入り前の教養」といった考え方がまだ強く、女子は大学に行くにしても人文や家政系の領域へ行くという慣習が根強くあった。さらに、旧制の専門学校からの教員や施設の継続性といった側面からも、社会科学系や自然科学系の新たな学部構成は困難であった。

その後20年を経た1970年においても1学部のみの大学が57大学(77%)、2学部が15校(20.3%)、3学部と4学部はそれぞれ1校のみ。さらに20年を経た1990年においても、82大学中、1学部のみの単科大学が60校で全体の約4分の3(73.2%)を占めていた。2学部が17校(20.7%)、3学部が4校(4.9%)、4学部は1校(1.1%)に過ぎず、学部数による大学割合は1970年とほとんど変わらない。3学部をもつのは日本女子、神戸女学院、共立女子、椋山女学園の4女子大学、4学部を擁していたのは武庫川女子のみである。このように、1990年までの女子大学の学部数は1学部の単科大学が圧倒的に多く、2学部以下の大学が9割以上を占めており、学生規模は大きくなったものの、学部数では40年間、大きな変化はなかった。

次に、表6より学部の学問領域構成の変化を確認する。現在の学部構成と比較するために、2015年時点での学部構成で特徴的な領域を考慮して作成した分類表である。1950年から1990年まで、女子大学の学部構成はほとんど変わっていない。主要なものは文学部系と家政学部系で、全学部の7割を超える。1950年においては「教養」系に分類しているものも多いが、これには文学部系に近い学芸学部や、文家政学部といった文学と家政学を一つにした学部も含まれているので、ほとんどの学部が文学部系と家政学部系であったといえる。新たな女子大学が誕生するものの、文学部系が中心で、1990年における全学部の半数以上(50.5%)、全女子大学の3分の2(67.9%)は文学部系の学部をもっていた。家政学系の学部も全学部の4分の1(26.6%)を占め、全女子大学の3校に1校以上(35.8%)がこの系列の学部をもっていたのである。1990年までは、看護、薬、社会、その他領域の広がりには少なく、学部の学問領域は極めて限定されていた。

表 4. 私立女子大学における学部名と学部数の推移 (1950、1970、1990、2010、2015年)

| (数目安) | 1950年度 | | | 1970年度 | | | 1990年度 | | | 1990年度 | | | | | |
|------------|------------------|-----|------------|------------|-----|--------|----------|-----|-------|--------|------|-------|----------|----|---|
| | 大学名 | 学部名 | 学部数 | 大学名 | 学部名 | 学部数 | 大学名 | 学部名 | 学部数 | 大学名 | 学部名 | 学部数 | | | |
| 10(80,150) | 聖心女子 | 文 | 1 | 聖心女子 | 文 | 1 | 郡山女子 | 家政 | 1 | 聖心女子 | 文 | 1 | 続(フェリス女) | 音楽 | 1 |
| | 津田塾 | 学芸 | 1 | 津田塾 | 学芸 | 1 | 大谷女子 | 文 | 1 | 津田塾 | 学芸 | 1 | 神戸海星女子 | 文 | 1 |
| | 東京女子 | 文 | 1 | 東京女子 | 文理 | 1 | 神戸松蔭女子学院 | 文 | 1 | 東京女子 | 文理 | 2 | 武蔵野女子 | 文 | 1 |
| | 日本女子 | 文 | 2 | 日本女子 | 文 | 2 | 神戸女子 | 文 | 2 | 東京女子 | 現代文化 | 2 | 帝国女子 | 家政 | 1 |
| | 神戸女学院 | 文 | 1 | 神戸女学院 | 文 | 3 | 親和女子 | 文 | 1 | 日本女子 | 文 | 3 | 郡山女子 | 家政 | 1 |
| | 宮城学院女子 | 学芸 | 1 | 宮城学院女子 | 学芸 | 1 | 園田学園女子 | 文 | 1 | 神戸女学院 | 家政 | 1 | 大谷女子 | 文 | 1 |
| | 和洋女子 | 家政 | 1 | 和洋女子 | 音楽 | 1 | 広島文教女子 | 文 | 1 | 神戸女学院 | 人間社会 | 1 | 神戸松蔭女子学院 | 文 | 1 |
| | 大妻女子 | 家政 | 1 | 大妻女子 | 家政 | 1 | 安田女子 | 文 | 1 | 神戸女学院 | 音楽 | 3 | 神戸女子 | 文 | 2 |
| | 実践女子 | 家政 | 1 | 実践女子 | 家政 | 2 | 立正女子 | 家政 | 2 | 神戸女学院 | 家政 | 3 | 親和女子 | 家政 | 1 |
| | 昭和女子 | 家政 | 1 | 昭和女子 | 文 | 1 | 愛知女子 | 家政 | 1 | 宮城学院女子 | 学芸 | 1 | 園田学園女 | 文 | 1 |
| | 女子美術 | 芸術 | 1 | 共立女子 | 家政 | 2 | 帝塚山学院 | 文 | 1 | 和洋女子 | 文家政 | 1 | 広島文教女子 | 文 | 1 |
| | 東京家政 | 家政 | 1 | 共立女子 | 文芸 | 2 | 大手前女子 | 文 | 1 | 大妻女子 | 家政 | 2 | 安田女子 | 文 | 1 |
| | 相模女子 | 学芸 | 1 | 実践女子 | 文 | 2 | 四国女子 | 家政 | 1 | 共立女子 | 文 | 3 | 帝塚山学院 | 文 | 1 |
| | 金城学院 | 文 | 1 | 実践女子 | 家政 | 2 | 徳島女子 | 家政 | 2 | 共立女子 | 家政 | 3 | 大手前女子 | 文 | 1 |
| | 福山学園 | 家政 | 1 | 昭和女子 | 文家政 | 1 | 橘女子 | 文 | 1 | 共立女子 | 文芸 | 3 | 四国女子 | 家政 | 2 |
| 京都女子 | 文 | 2 | 女子美術 | 芸術 | 1 | 四天王寺女子 | 文 | 1 | 共立女子 | 国際文化 | 3 | 実践女子 | 文 | 2 | |
| 20(90) | 同志社女子 | 学芸 | 1 | 東京家政 | 家政 | 1 | 美作女子 | 家政 | 1 | 実践女子 | 家政 | 2 | 橘女子 | 文 | 1 |
| | 大阪樟蔭女子 | 学芸 | 1 | 金城学院 | 文 | 2 | 梅光女子学院 | 文 | 1 | 相模女子 | 学芸 | 1 | 弘前学院 | 文 | 1 |
| | 武庫川学院女子 | 学芸 | 1 | 金城学院 | 家政 | 2 | 岐阜女子 | 家政 | 2 | 金城学院 | 家政 | 2 | 尚綱 | 文 | 1 |
| | ノートルダム清心女子 | 学芸 | 1 | 福山学園 | 家政 | 1 | 東北女子 | 家政 | 1 | 金城学院 | 家政 | 2 | 愛知淑徳 | 文 | 1 |
| | 広島女学院 | 英文 | 1 | 京都女子 | 文 | 2 | 東北女子 | 家政 | 1 | 福山学園 | 家政 | 3 | 就実女子 | 文 | 1 |
| | 共立薬科 | 薬 | 1 | 同志社女子 | 学芸 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 福山学園 | 文 | 3 | 鹿児島女子 | 文 | 1 |
| | 神戸女子薬科 | 薬 | 1 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 福山学園 | 文 | 3 | 東海女子 | 文 | 1 |
| | 清泉女子 | 文 | 1 | 大阪樟蔭女子 | 学芸 | 1 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 福山学園 | 人間関係 | 2 | 活水女子 | 文 | 1 |
| | 別府女子 | 文 | 1 | 武庫川女子 | 文 | 4 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 福山学園 | 家政 | 2 | 日本赤十字看護 | 看護 | 1 |
| | 別府女子 | 文 | 1 | 武庫川女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 福山学園 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 学芸 | 2 |
| 30(100) | 学部数 大学数 28 26 | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 学芸 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | |
| 40(110) | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | |
| 50(120) | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | |
| 60(130) | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | |
| 70(140) | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 |
| | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | |
| | | | ノートルダム清心女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | 同志社女子 | 家政 | 2 | |

注：大学の並び方は、上から設立年が早い順としている。

| 2010年度 | | | 2015年度 | | | 2010年度 | | | 2015年度 | | | |
|------------|------------|-------------|--------|-----------------|--------------|--------|--------|------------|--------|------------------|--------------|-----|
| (数目安) | 大学名 | 学部名 | 学部数 | 大学名 | 学部名 | 学部数 | 大学名 | 学部名 | 学部数 | 大学名 | 学部名 | 学部数 |
| | 聖心女子 | 文 | 1 | 統(鎌倉女子)教育 | 統(聖徳) 人間栄養 | 1 | 聖心女子 | 文 | 1 | 瓶(ノートルダム清心) 人間生活 | 恵泉女学院 人文 | 2 |
| | 津田塾 | 学芸 | 1 | 藤女子 文 | 福岡女学院 人文 | 2 | 津田塾 | 学芸 | 1 | 広島女学院 国際教養 | 人間社会 | |
| | 東京女子 | 現代教養 | 1 | 人間生活 | 人間関係 | | 東京女子 | 現代教養 | 1 | 人間生活 | 筑紫女学院 文 | 3 |
| | 日本女子 | 家政 | 4 | 女子栄養 栄養 | 松山東雲女子 人文 | 1 | 日本女子 | 家政 | 4 | 清泉水子 文 | 人間科学 | |
| | | 人間社会 | | 京都ノートルダム女子 人間文化 | 駒沢女子 人文 | 2 | | 人間社会 | | 東京女子医科 医 | 現代社会 | |
| | 神戸女学院 | 文 | 3 | 心理 | 人間健康 | | | 人間社会 | | 看護 | 東洋英和女学 人間科学 | 2 |
| | | 音楽 | | 生活福祉文化 | 西南女学院 保健福祉 | 2 | | 理 | | 鎌倉女子 家政 | 国際社会 | |
| | | 人間科学 | | 東京女子体育 体育 | 人文 | | 神戸女学院 | 文 | 3 | 児童 | 聖徳 文 | 6 |
| 10(80,150) | 宮城学院女子 | 学芸 | 1 | 九州女子 家政 | 龍児島純心女子 国際人間 | 2 | 宮城学院女子 | 学芸 | 1 | 教育 | 音楽 | |
| | 和洋女子 | 人文 | 2 | 人間科学 | 看護栄養 | | 和洋女子 | 人文 | 2 | 人間生活 | 児童 | |
| | | 家政 | | 文化女子 服装 | 看 | | | 家政 | | 栄養 | 人間栄養 | |
| | 大妻女子 | 家政 | 5 | 造形 | 東京純心女子 現代文化 | 1 | 大妻女子 | 家政 | 5 | 生活福祉文化 | 心理・福祉 | |
| | | 文 | | 現代文化 | 爱国学園 人間文化 | 1 | | 文 | | 生活福祉文化 | 看護 | |
| | | 社会情報 | | 名古屋女子 家政 | 学習院女子 国際文化交流 | 1 | | 社会情報 | | 東宮女子体育 体育 | 人間関係 | |
| | | 人間関係 | | 文 | 桜花学園 学芸 | 1 | | 人間関係 | | 九州女子 家政 | 国際キャリア | |
| | | 比較文化 | | 京都光華女子 人文 | 平安女学院 子ども | 2 | | 比較文化 | | 人間科学 | 松山東雲女子 人文科学 | 1 |
| 20(90) | 共立女子 | 家政 | 3 | キャリア形成 | 国際観光 | | 共立女子 | 家政 | 4 | 東宮家政学院 現代生活 | 駒沢女子 人文 | 2 |
| | | 文芸 | | 健康科学 | 東京女学館 国際教養 | 1 | | 文芸 | | 名古屋女子 家政 | 人間健康 | |
| | | 国際 | | 文化表現 | 清泉水子 人間 | 1 | | 国際文化 | | 看護 | 西南女学院 人文 | 2 |
| | 実践女子 | 文 | 3 | 心理こども | 千里金蘭 生活科学 | 2 | | 看護 | | 看護 | 保健福祉 | |
| | | 生活科学 | | 看 | 大阪女学院 国際・英語 | 1 | | 文 | 3 | キャリア形成 | 龍児島純心女子 国際人間 | 2 |
| | | 人間社会 | | 甲南女子 文 | 福岡女学院 看護 看護 | 1 | | 生活科学 | | 健康科学 | 看護栄養 | |
| | 昭和女子 | 人間文化 | 3 | 人間科学 | 74 大学数 | | | 人間社会 | | 梅花女子 文化表現 | 仙台白百合 人間 | 1 |
| | | 生活科学 | | 継続ハビリテーション | 165 学部数 | | | 人間文化 | 4 | 食文化 | 十文字学園女子 人間生活 | 1 |
| | | 人間社会 | | 跡見学園女子 文 | | | | 人間社会 | | 心理こども | 愛国学園 人間文化 | 1 |
| | 女子美術 | 芸術 | 1 | マネジメント | | | | 生活科学 | | 看護保健 | 学習院女子 国際文化交流 | 1 |
| | 東京家政 | 家政 | 2 | 白百合女子 文 | | | | グローバリゼーション | | 甲南女子 文 | 桜花学園 学芸 | 2 |
| 30(100) | 相模女子 | 学芸 | 3 | フェリス女学院 文 | | | | 女子美術 | 1 | 人間科学 | 平安女学院 子ども | 2 |
| | | 栄養科学 | | 音楽 | | | | 東京家政 | 4 | 跡見学園女子 文 | 国際観光 | |
| | | 人間社会 | | 音楽 | | | | 人文 | | マネジメント | 清泉女学院 人間 | 1 |
| | 金城学院 | 文 | 5 | 神戸海星女子 現代人間 | | | | 看護 | | 観光コミュニティ | 千里金蘭 生活科学 | 2 |
| | | 生活環境 | | 郡山女子 家政 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | 看 | |
| | | 現代文化 | | 神戸松蔭女子学院 文 | | | | 相模女子 | 3 | 日本女子体育 体育 | 大阪女学院 国際・英語 | 1 |
| | | 人間科学 | | 人間科学 | | | | 学芸 | | フェリス女学院 文 | 福岡女学院 看護 看護 | 1 |
| | 椋山女学院 | 生活科学 | 7 | 文 | | | | 人間社会 | | 音楽 | 京都華頂 現代家政 | 1 |
| | | 国際コミュニケーション | | 健康福祉 | | | | 金城学院 | 5 | 国際交流 | 岡崎女子 子ども教育 | 1 |
| | | 人間関係 | | 神戸親和女子 文 | | | | 文 | | 神戸海星女子 現代人間 | | |
| | | 文化情報 | | 発達教育 | | | | 生活環境 | | 郡山女子 家政 | | |
| | | 現代マネジメント | | 園田学園女子 人間教育 | | | | 国際情報 | | 神戸松蔭女子学院 文 | | |
| | | 教育 | | 未来デザイン | | | | 人間科学 | | 神戸海星女子 現代人間 | | |
| | | 看護 | | 人間健康 | | | | 薬 | | 人間科学 | | |
| 40(110) | 京都女子 | 文 | 4 | 広島文教女子 人間科学 | | | | 椋山女学院 | 7 | 神戸女子 文 | | |
| | | 家政 | | 安田女子 文 | | | | 学芸 | | 家政 | | |
| | | 現代社会 | | 現代ビジネス | | | | 学芸 | | 健康福祉 | | |
| | | 発達教育 | | 家政 | | | | 人間社会 | | 看護 | | |
| 50(120) | 同志社女子 | 学芸 | 5 | 薬 | | | | 京都市 | 5 | 国際観光 | | |
| | | 生活科学 | | 岐阜女子 家政 | | | | 文 | | マナジメン | | |
| | | 現代社会 | | 文化創造 | | | | 家政 | | 観光 | | |
| | | 薬 | | 高綱 文化言語 | | | | 現代社会 | | 白百合女子 文 | | |
| | | 表象文化 | | 生活科学 | | | | 発達教育 | | 看 | | |
| | 大阪樟蔭女子 | 学芸 | 3 | 活水女子 文 | | | | 看護 | | 白百合女子 文 | | |
| | | 児童 | | 文 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | | 心理 | | 音楽 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | 武庫川女子 | 文 | 4 | 健康生活 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | | 生活環境 | | 看 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | | 音楽 | | 川村学園女子 文 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | | 薬 | | 教育 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| 60(130) | ノートルダム清心女子 | 文 | 2 | 人間文化 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | | 人間生活 | | 人間文化 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | 広島女学院 | 文 | 2 | 人間社会 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | | 生活科学 | | 筑紫女学院 文 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | 清泉女子 | 文 | 1 | 東洋英和女学 人間科学 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | 東京女子医科 | 医 | 2 | 国際社会 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | 鎌倉女子 | 家政 | 3 | 聖徳 人文 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| 70(140) | | 児童 | | 音楽 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |
| | | | | 児童 | | | | 看 | | 白百合女子 文 | | |

出典：文教協会、(大学教育研究会、文部省高等教育局)「全国大学一覧」の上記各年度(1950年を除く)。大学によっては、大学HPの年表で確認。

2010年、2015年は、アエラムック『大学ランキング』(2011年度版、2016年度版)も参照した。

表 5. 私立女子大学の学部数による分布と経年変化（1950～2015年）

| 学部数 | 1950 | | 1960 | | 1970 | | 1980 | | 1990 | | 2000 | | 2010 | | 2015 | |
|------------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|
| | 校数 | % | 校数 | % | 校数 | % | 校数 | % | 校数 | % | 校数 | % | 校数 | % | 校数 | % |
| 1学部 | 24 | 92.3 | 24 | 80.0 | 57 | 77.0 | 61 | 78.2 | 60 | 73.2 | 54 | 60.0 | 25 | 33.8 | 25 | 14.5 |
| 2学部 | 2 | 7.7 | 5 | 16.7 | 15 | 20.3 | 15 | 19.2 | 17 | 20.7 | 23 | 25.6 | 23 | 31.1 | 21 | 12.1 |
| 3学部 | - | - | 1 | 3.3 | 1 | 1.4 | 1 | 1.3 | 4 | 4.9 | 9 | 10.0 | 16 | 21.6 | 12 | 6.9 |
| 4学部 | - | - | - | - | 1 | 1.4 | 1 | 1.3 | 1 | 1.2 | 3 | 3.3 | 6 | 8.1 | 7 | 4.0 |
| 5学部 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 1.1 | 3 | 4.1 | 3 | 1.7 |
| 6学部 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 0 | 0.0 | 3 | 1.7 |
| 7学部 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 1.4 | 2 | 1.2 |
| 合計(a) | 26 | 100.0 | 30 | 100.0 | 74 | 100.0 | 78 | 100.0 | 82 | 100.0 | 90 | 100.0 | 74 | 100.0 | 73 | 100.0 |
| 学部数合計(b) | 28 | | 37 | | 94 | | 98 | | 109 | | 143 | | 165 | | 178 | |
| 平均学部数(b/a) | 1.04 | | 1.23 | | 1.27 | | 1.26 | | 1.33 | | 1.59 | | 2.23 | | 2.44 | |

出典：文教協会（文部省大学学術局大学課、）大学教育研究会、文部省高等教育局）『全国大学一覧』（昭和35年以降）。
2000年以降は、アエラムック『大学ランキング』（2001年度、2011年度、2016年度）も参照した。必要に応じて、大学HPの年表を参照した。

表 6. 私立女子大学の学部系統比率の比較（1990年と2015年の比較）

| 年 | 学部数 | 教育 文 家政 薬 看護 社会 教養 その他 | | | | | | | | 計 |
|------|----------|------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------------|
| | | 教育 | 文 | 家政 | 薬 | 看護 | 社会 | 教養 | その他 | |
| 1950 | 学部数 | 0 | 9 | 7 | 2 | 0 | 0 | 9 | 1 | 28 |
| | 全学部数での比率 | — | 0.321 | 0.250 | 0.071 | — | — | 0.321 | 0.036 | 1.000（全学部数:28） |
| | 全大学数での比率 | — | 0.346 | 0.269 | 0.077 | — | — | 0.346 | 0.038 | 1.077（全大学数:26） |
| 1970 | 学部数 | 2 | 37 | 31 | 3 | 1 | 0 | 9 | 11 | 94 |
| | 全学部数での比率 | 0.021 | 0.394 | 0.330 | 0.032 | 0.011 | — | 0.096 | 0.117 | 1.000（全学部数:94） |
| | 全大学数での比率 | 0.027 | 0.500 | 0.419 | 0.041 | 0.014 | — | 0.122 | 0.149 | 1.270（全大学数:74） |
| 1990 | 学部数 | 0 | 55 | 29 | 3 | 2 | 2 | 7 | 11 | 109 |
| | 全学部数での比率 | — | 0.505 | 0.266 | 0.028 | 0.018 | 0.018 | 0.064 | 0.101 | 1.000（全学部数:109） |
| | 全大学数での比率 | — | 0.679 | 0.358 | 0.037 | 0.025 | 0.025 | 0.086 | 0.136 | 1.346（全大学数:81） |
| 2015 | 学部数 | 14 | 40 | 37 | 4 | 16 | 10 | 7 | 52 | 180 |
| | 全学部数での比率 | 0.078 | 0.222 | 0.206 | 0.022 | 0.089 | 0.056 | 0.039 | 0.289 | 1.000（全学部数:180） |
| | 全大学数での比率 | 0.192 | 0.548 | 0.507 | 0.055 | 0.219 | 0.137 | 0.096 | 0.712 | 2.466（全大学数:73） |

注：学部系統の分類は統一的な基準が難しく、本表では以下のようにしている。

社会：人間社会、社会情報、国際社会、社会福祉、ビジネスなどを含む。

文：人文、文芸、英文、人間文化を含むが、学芸、文理、人間科学などは含まない。

家政：生活環境、生活科学、健康生活、栄養などを含む。

教養：学芸、文理、（国際／現代）教養の他、本表では「文家政学部」もこれに含めている。

出典：表4に記載の出典と同じ。（表4を基に作成しているが、2010年については割愛して。）

(2) 大綱化以降の変化

1991年に大学設置基準大綱化が始まるものの、その後すぐに学部創設や転換が実現するわけでもなく、1990年代には徐々に変革が進行していった。2000年代に入ると、こうした状況に明らかな変化が生じる。まず学部数では、2000年時点で、1学部の単科大学が60.0%、2学部以下の大学が85.6%を占め、1大学平均の学部数は1.59、1990年の1.33と大きな変化はない(表5)。2010年になると、1大学平均学部数は2.23と2学部を超え、2015年にはさらに2.44となっており、1990年と比較して1学部近く増加した。2015年の単科大学は25校、34.2%であり、1990年の73.2%と比べて、大きく減少した。最大は7学部で、椛山女学園と安田女子の2校、5学部以上もつ大学は8校、4学部以上では21校となり、4学部以上の女子大学は全体の1割(10.9%)となった。多くの学部をもつ女子大学は増えたものの、一方で2学部以下の大学が63%を占めており、学部数を拡大した一部の大学との差が大きくなっている。

こうした変化の背景には、これまでも指摘してきたように、1991年以降の大学設置基準の“大綱化”という高等教育政策の大転換があり、これが女子大学のみならず大学全体の学部構成に大きな変化をもたらす契機となった。大学の運営、教学等に関して大幅な規制緩和を行い、例えば学部については学問領域による学部構成を見直し、社会の変化やそのニーズに沿った学部構成と知識・技能の提供を、大学自らが探求し、改変していく方針が示された。これを受けて、学問横断的な学部、課題解決型・政策提案型の学部、ITや国際化などの社会ニーズに応えようとする学部が創設され、それに伴った新たなカリキュラムが作られていったのである。

次に、学部領域の構成は具体的にどう変化したかを確認する。全学部に占める文学系の学部は、1990年に55学部、50.5%であったものが、2015年には40学部、22.2%となり、学部数も占有率も大幅に減少した。同じ期間で、家政系学部は29学部、占有率26.6%から、37学部、20.6%となった。占有率は低くなったものの、その減少幅は小さく、学部数は逆に8学部も増加している。管理栄養士等の人気資格取得ということで、家政・栄養系の学部が新設され、4年制に改組した短大に家政系が多くあったことがその要因である。大幅に増えたのは「その他」分類、看護学系、教育学系、社会科学系の学部であった(表4、表6)。「その他」分野としては、複合的な領域が多い。国際を冠し、教養、情報、文化、観光などと結びつけたもの、人間科学や人間関係などのいわゆる4文字学部など多様である。看護は2学部から16学部へと飛躍的に増えた。1990年に存在した2看護学部はいずれも共学化したので、新たに16学部が作られたことになる。リベラルアーツを標榜する伝統ある女子大学で、職業に直結した看護学部を開設した例もある。就職・就業環境が厳しくなる中で、特に女子受験生は生涯を通じて使える資格を重視して学部選びをされるとされる。一方、大学側にとっては、18歳人口が減少する中、看護

学部の設置により資格志向の強い女子受験生を確実に集めることができる。この需要と供給の合致により、看護学部の設立が選択されたのではないか⁸⁾。同様に、家政系学部の設置増加に関しても、管理栄養士という人気資格が後押ししている。教育・保育も同様で、小学校教員免許や保育士は女子学生に従来から人気がある免許・資格を提供できる学部である。短期大学は職業・実務に結びついた保育や家政といった学科を擁しており、こうした短大が4年制へと転換する中で増加していった。教育系学部においては、2010年前後から小学校教員の大量退職と大量採用の時期となり、教員需要が伸びる予想と規制緩和から、設けられた側面もある。さらに、これまで女子大学にはほとんど見られなかった、社会科学系学部も増えた。現代社会や人間社会といった名称が多く、その学科構成は心理、コミュニケーション、福祉、こども（教育・保育系）、ビジネス、国際社会、情報など多様で、大学により大きく異なる。従来の文学部から一部の学科を学部として独立させ、社会や学生のニーズ・嗜好に応える学科を並べたようなモザイク状態である。この他、安田女子、昭和女子にはビジネスを冠した学部、跡見学園女子と椋山女学園はマネジメントを冠した学部を設けるなど、学問分野にとらわれず企業や公務員への就職を目指した実務的な学部も現れている。京都女子は、これまで共学大学にしかなかった伝統的な学問領域の法学部を2011年に開設した。表に示していないが、女子高等教育のパイオニアであり、これまで学芸学部の1学部体制で、リベラルアーツ教育を堅持してきた津田塾が、2017年度より2学部目となる政策科学部を開設するなど、新たな動きが始まっている（津田塾 HP 2017年2月）。

4. 大学院の開設と研究科数の変化

大学院自体の設置基準が設けられたのは1974年と遅く、学部学生を主たる対象としてきた私立大学にとって、学生数も少ない大学院は、工学系を除いてそれほど関心の高い対象ではなかった。旧来、大学院の設置は研究者養成を行ってきた伝統ある大学が主であったものの、大学院の有無はその大学の学問レベルの高さやステータスを示すものとして設けられてきた側面もある。それが、1980年代後半に臨教審により大学院改革の方向性が打ち出され、1989年あるいは1991年を境に以降⁹⁾、大学院の弾力化や量的拡充整備、高度職業人の育成などの政策が矢継ぎ早に実行されていった（黒羽 2001, 2002）。女子大学を含めて、大学院を設置する大学が急速に増加している。本節では、1974年の大学院設置基準設定後、研究科数の変動が大きかった時期を除き、大学院改革が始まったばかりの1990年と実施以降の動向を対比し、検討していく¹⁰⁾。

まず、大学における大学院の有無を確認する。表7は、1990年と2015年の2時点において、私立女子大学ごとの学部数、修士課程と博士後期課程における研究科数、研究科名を示した一覧表である。表8には、1990年、2000年、2010年、2015年の4時点にお

ける、私立女子大学の学部数、修士課程及び博士後期課程の研究科数と、それらの1大学平均をまとめた。表9は、表8と同じ4時点における設置者別の大学院設置率、平均研究科数をまとめたものである。

1990年時点での私立女子大学の大学院有無を見ると、37.0%が大学院を有しており、持たない大学が6割を超える(表8)。私立大学全体では、大学院を設置する大学の割合が52.4%と半数を超え、女子大学の大学院設置率より15ポイント程度高かった。国立大学はこの時点で既に、1校を除く全ての大学が大学院を設置しており(99.0%)、国立と私立の間で大きな差が見られる(表9)。公立は私立と同程度であった。

この時点で、大学院を持つ大学1校当たりの研究科数は、女子大学では平均1.45で、1研究科か、2研究科が大多数を占める。3以上の研究科を持つ女子大学は、津田塾と武庫川女子の2校のみである。研究科の種類としては、文学研究科と家政学研究科が大部分を占めている(表7)。設置者ごとの研究科数平均では、国立が最も多くて平均2.87、続いて私立の2.18、最も少ない公立は1.78であるが、私立女子大学の1.45を上回っている。

大学院改革が始まった1990年頃より、大学院の設置率は私立女子大、私立大、公立大でも大幅に上昇していく。私立女子大では1990年に37.0%であったものが、10年後の2000年に55.1%(博士のみの東京女子医を加えた比率)と半数を超え、さらに10年後の2010年には75.7%となり、4分の3以上の女子大学が大学院を有するまでになった。2015年には78.1%となって、8割に迫ろうとしている(表8)。規制緩和や学問の高度化等による大学院設置推進策もさることながら、1996年より臨床心理士養成大学院指定制度が始まり、女性の人気が高かったこの資格に必要な課程を提供するため大学院を設けた女子大学も少なからずあった。国立大学は1995年時点で全ての大学が大学院を有し、公立、私立も急速に大学院を持つようになって、2015年時点では公立が9割弱(87.5%)、私立は4分の3を超えた(76.7%)。先述のように、私立女子大学は大学院設置率を急速に伸ばし、2010年時点で私立大学全体のそれを逆転した。私立大学全体では、新設された大学が急増したため、大学院の設置にまでに至らず、設置率が伸び悩んだためである。

1大学当たりの修士課程研究科数がどれだけ伸びたかを見ると、私立女子大学は1990年の1.45が、2015年には1.89へと増加してはいるが、学部数の伸びと比較した場合、伸び率は小さい(表8)。私立全体でも2.15が2.53に増加し、同じ傾向である。これに対して大学数が減少した国立大学は、1990年に平均2.87であったものが2015年には4.81となり、1.7倍近くに急増した(表9)。ただし、2010年の5.03より下がっているのは、大学院の再編統合がなされているためである。

博士後期課程研究科数の経年変化に目を向けると、修士課程をもつ大学が増えるにつれ、博士後期課程を設置する割合も上昇している。私立女子大学では、1990年に81大学中、19大学(23.5%)に博士後期課程が設置されており、研究科数の合計は24であっ

表7. 私立女子大学における学部、研究科（修士・博士後期課程）の1990年と2015年の比較

1990年度

1990年4月1日現在

| 大学名 | 学部数 | 院研究科数 | | 研究科名 |
|------------|-----|-------|----|--------------------------------------|
| | | 修士 | 博士 | |
| 聖心女子 | 1 | 1 | 1 | 文学(1952)* |
| 津田塾 | 1 | 3 | 3 | 文学(1963)* 理(1963)* 国際関係(1974)* |
| 東京女子 | 2 | 2 | | 文学(1971) 理(1971) |
| 日本女子 | 3 | 2 | 1 | 文学(1966)* 家政学(1961) |
| 神戸女学院 | 3 | 1 | 1 | 文学(1965)* |
| 宮城学院女子 | 1 | 0 | | |
| 和洋女子 | 1 | 0 | | |
| 大妻女子 | 2 | 2 | 1 | 家政学(1972)* 文学(1972) |
| 共立女子 | 3 | 2 | | 家政(1980) 文芸(1966) |
| 実践女子 | 2 | 2 | 1 | 文学(1966)* 家政学(1966) |
| 昭和女子 | 2 | 2 | 2 | 文学(1974)* 家政学(1986)→生活機構(1989)* |
| 女子美術 | 1 | 0 | | |
| 東京家政 | 2 | 1 | | 家政学(1989) |
| 相模女子 | 1 | 0 | | |
| 金城学院 | 2 | 1 | | 文学(1967) |
| 椋山女学園 | 3 | 1 | | 家政学(1977) |
| 京都女子 | 2 | 2 | | 文学(1966) 家政学(1966) |
| 同志社女子 | 2 | 2 | 1 | 文学(1967)* 家政学(1968) |
| 大阪樟蔭女子 | 1 | 0 | | |
| 武庫川女子 | 4 | 3 | 2 | 文学(1971) 家政学(1966)* 薬学(1966)* |
| ノートルダム清心女子 | 2 | 0 | | |
| 広島女学院 | 1 | 0 | | |
| 共立薬科 | 1 | 1 | 1 | 薬学(1961)* |
| 神戸女子薬科 | 1 | 1 | 1 | 薬学(1967)* |
| 清泉女子 | 1 | 0 | | |
| 東京女子医科 | 1 | 0 | 1 | 医学(1958)* |
| 上野学園 | 1 | 0 | | |
| 鎌倉女子 | 1 | 0 | | |
| 藤女子 | 1 | 0 | | |
| 女子栄養 | 1 | 1 | 1 | 栄養(1969)* |
| ノートルダム女子 | 1 | 0 | | |
| 東京女子体育 | 1 | 0 | | |
| 九州女子 | 2 | 0 | | |
| 東京家政学院 | 2 | 0 | | |

| 大学名 | 学部数 | 院研究科数 | | 研究科名 |
|----------|-----|-------|----|-------------------------|
| | | 修士 | 博士 | |
| 中京女子 | 2 | 0 | | |
| 文化女子 | 1 | 1 | 1 | 家政学(1972)* |
| 名古屋女子 | 2 | 0 | | |
| 光華女子 | 1 | 0 | | |
| 梅花女子 | 1 | 1 | | 文学(1977) |
| 甲南女子 | 1 | 1 | 1 | 文学(1975)* |
| 杉野学園女子 | 1 | 0 | | |
| 聖路加看護 | 1 | 1 | 1 | 看護(1980)* |
| 跡見学園女子 | 1 | 0 | | |
| 白百合女子 | 1 | 1 | | 文学(1990) |
| 日本女子体育 | 1 | 0 | | |
| フェリス女学院 | 2 | 0 | | |
| 神戸海星女子 | 1 | 0 | | |
| 武蔵野女子 | 1 | 1 | | 人間社会・文学科(1999) |
| 帝国女子 | 1 | 0 | | |
| 郡山女子 | 1 | 0 | | |
| 大谷女子 | 1 | 1 | 1 | 文学(1975)* |
| 神戸松蔭女子学院 | 1 | 0 | | |
| 神戸女子 | 2 | 2 | 2 | 文学(1986)* 家政学(1984)* |
| 親和女子 | 1 | 0 | | |
| 園田学園女子 | 1 | 0 | | |
| 広島文教女子 | 1 | 1 | | 文学(1986) |
| 安田女子 | 1 | 0 | | |
| 帝塚山学院 | 1 | 0 | | |
| 大手前女子 | 1 | 0 | | |
| 四国女子 | 2 | 0 | | |
| 橘女子 | 1 | 0 | | |
| 美作女子 | 1 | 0 | | |
| 梅光女学院 | 1 | 1 | 1 | 文学(1976)* |
| 岐阜女子 | 2 | 0 | | |
| 東北女子 | 1 | 0 | | |
| 弘前学院 | 1 | 0 | | |
| 尚綱 | 1 | 0 | | |
| 愛知淑徳 | 1 | 1 | | 文学(1989) |
| 就実女子 | 1 | 0 | | |
| 鹿児島女子 | 1 | 0 | | |
| 東海女子 | 1 | 0 | | |
| 活水女子 | 1 | 0 | | |
| 日本赤十字看護 | 1 | 0 | | |
| 金沢女子 | 1 | 0 | | |
| 川村学園女子 | 1 | 0 | | |
| 恵泉女学園 | 1 | 0 | | |
| 筑紫学園 | 1 | 0 | | |
| 聖カタリナ女子 | 1 | 0 | | |
| 東洋英和女学 | 1 | 0 | | |
| 聖徳 | 1 | 0 | | |
| 福岡女学院 | 1 | 0 | | |

注1：研究科名の後の（）内の数字は、設立年（学生が入学した年度）を示す。

注2：研究科名の後の「*」印は、博士後期課程を有する研究科を示す。

注3：Mは修士課程、Dは博士後期課程を示す。

注4：連合大学院の研究科はカウントしていない。

注5：網掛けされた研究科は、廃止されたもの。

出典：文教協会「全国大学一覽」（平成2年度、平成27年度）。必要に応じて、各大学のHPを参照した。

2015 年度

| 大学名 | 学部数 | 院研究科数 | | 研究科名 |
|------------|-----|-------|----|--|
| | | 修士 | 博士 | |
| 聖心女子 | 1 | 1 | 1 | 文学(1952) * |
| 津田塾 | 1 | 3 | 3 | 文学(1963) * 理学(1963) * 国際関係学(1974) * |
| 東京女子 | 1 | 2 | 2 | 文学(1971)→2012募集停止 2014廃止 現代文化(1993)→2012募集停止 人間科学 博士(2005) * + 修士(2012) 理学(1971) * |
| 日本女子 | 4 | 5 | 4 | 家政学(1961) 人間生活学 博士(1992) * 文学(1966) * 人間社会(1994) * 理学(1996) * |
| 神戸女学院 | 3 | 3 | 2 | 文学(1965) * 音楽(2000) 人間科学(1997) * |
| 宮城学院女子 | 1 | 2 | | 人文科学(1995) 健康栄養(2008) |
| 和洋女子 | 2 | 2 | 1 | 総合生活(2002) * 人文科学(2002) |
| 大妻女子 | 5 | 1 | 1 | 人間文化(2010) * 家政学(1972) * →2015 廃止 文学(1972) * →2012 廃止 社会情報(1996) →2011 廃止 人間関係学(2003) →2012 廃止 |
| 共立女子 | 4 | 3 | 1 | 家政学(1980) * 文芸学(1966) 比較文化(1994) →国際学(2011) |
| 実践女子 | 3 | 3 | 2 | 文学(1966) * 生活科学(1966) * 人間社会(2010) |
| 昭和女子 | 4 | 2 | 2 | 文学(1974) * 家政学(1986) →生活機構(1993) * |
| 女子美術 | 1 | 1 | 1 | 美術(1994) * |
| 東京家政 | 4 | 1 | 1 | 家政学(1989) * →人間生活学総合(2012) * 文学(1996) →2014廃止 |
| 相模女子 | 3 | 1 | 1 | 栄養学(2008) * |
| 金城学院 | 5 | 2 | 2 | 文学(1967) * 人間生活学(1996) * |
| 椋山女学園 | 7 | 4 | 1 | 現代マネジメント(2014) 人間関係(2000) 家政学(1977) →生活科学(1999) * 教育学(2014) |
| 京都女子 | 5 | 5 | 4 | 文学(1966) * 家政学(1966) * 現代社会(2004) * 発達教育学(2006) * 法(2015) |
| 同志社女子 | 6 | 4 | 2 | 文学(1967) * 国際社会システム(2004) 家政学(1968) →生活科学(1999) 薬学(2012) 博士 * |
| 大阪樟蔭女子 | 3 | 1 | | 人間科学(2004) |
| 武庫川女子 | 6 | 6 | 4 | 家政学(1966) →生活環境学(2003) * 文学(1971) * 健康スポーツ科学(2011) 臨床教育学(1994) 独立研究科* 薬学(1966) * 看護(2015) |
| ノートルダム清心女子 | 2 | 2 | 2 | 文学(1995) * 人間生活学(1997) * |
| 広島女学院 | 2 | 2 | 1 | 言語文化(1995) * 人間生活学(1999) |
| 清泉水子 | 1 | 1 | 1 | 人文科学(1993) * |
| 東京女子医 | 2 | 1 | 2 | 医学研究科(1958) 博士 * 看護学(2002) |
| 鎌倉女子 | 3 | 1 | | 児童学(2005) |

2015年 4月 1日現在

| 大学名 | 学部数 | 院研究科数 | | 研究科名 |
|------------|-----|-------|----|---|
| | | 修士 | 博士 | |
| 藤女子 | 2 | 1 | | 人間生活学(2001) |
| 女子栄養 | 2 | 1 | 1 | 栄養学(1969) * |
| 京都ノートルダム女子 | 3 | 2 | 1 | 人間文化(2002) 心理学(2005) * |
| 東京女子体育 | 1 | | | |
| 九州女子 | 2 | | | |
| 東京家政学院 | 1 | 1 | | 人間生活学(1995) |
| 名古屋女子 | 2 | 1 | 1 | 生活学(1998) * |
| 京都光華女子 | 4 | 2 | | 人文科学(1998) →2013より募集停止 文学(1998) →2012募集停止 人間関係学(2004) →心理学(2014) 看護学(2015) |
| 梅花女子 | 4 | 2 | 1 | 文学(1977) * 現代人間学(2006) |
| 甲南女子 | 3 | 2 | 1 | 文学(1975) →人文科学総合(2003) * 看護(2012) |
| 跡見学園女子 | 3 | 2 | | 人文科学(2005) マネジメント(2006) |
| 白百合女子 | 1 | 1 | 1 | 文学(1990) * |
| 日本女子体育 | 1 | 1 | | スポーツ科学(1993) |
| フェリス学院 | 3 | 3 | 2 | 人文科学(1991) * 音楽(1998) 国際交流(2001) * |
| 神戸海星女子学院 | 1 | | | |
| 郡山女子 | 1 | 1 | 1 | 人間生活学(1992) * |
| 神戸松蔭女子学院 | 2 | 1 | 1 | 文学(2000) * |
| 神戸女子 | 4 | 2 | 2 | 文学(1986) * 家政学(1984) * |
| 神戸親和女子 | 2 | 1 | | 文学(2002) |
| 園田学園女子 | 2 | | | |
| 広島文教女子 | 1 | 1 | | 文学(1986) →人間科学(2005) |
| 安田女子 | 6 | 3 | 2 | 文学(1994) * 家政(2013) 薬(2013) * |
| 岐阜女子 | 2 | 2 | | 生活科学(2004) 文学(1995) →文化創造学(2006) |
| 東北女子 | 1 | | | |
| 尚綱 | 2 | | | |
| 活水女子 | 4 | 1 | | 文学(1991) |
| 川村学園女子 | 3 | 1 | 1 | 人文科学(1999) * |
| 恵泉女学園 | 2 | 2 | | 人文学(2001) 人間社会(2007) →平和学(2009) |
| 筑紫学園 | 3 | 1 | | 人間科学(2007) |
| 東洋英和女学院 | 2 | 2 | 1 | 人間科学(1993) * 社会科学(1993) →国際協力(2001) |
| 聖徳 | 6 | 5 | 4 | 児童学(1998) * 音楽文化(2002) * 人間栄養学(2003) * 臨床心理学(2004) * ◎専門職<教職研究科(2009)> |
| 福岡女学院 | 3 | 1 | | 人文科学(2003) |
| 松山東雲女子 | 1 | | | |
| 駒沢女子 | 2 | 1 | | 人文科学(2002) |
| 西南学院 | 2 | | | |
| 鹿児島純心女子 | 2 | 1 | | 人間科学(2004) |
| 仙台白百合女子 | 1 | | | |
| 十文字学園女子 | 2 | 1 | | 人間生活学(2010) |
| 愛国学院 | 1 | | | |
| 学習院女子 | 1 | 1 | | 国際文化交流(2004) |
| 桜花学園 | 2 | 1 | | 人間文化(2002) |
| 平安女学院 | 2 | | | |
| 清泉女学院 | 1 | | | |
| 千里金蘭 | 2 | | | |
| 大阪女学院大学 | 1 | 1 | | 21世紀国際共生(2009) |
| 福岡女学院看護 | 1 | | | |
| 京都華頂 | 1 | | | |
| 岡崎女子 | 1 | | | |

表 8. 私立女子大学—大学平均学部数及び研究科数の推移

| 年 | 大学数 学部数 平均 | | | 大学院なし(%) | 修士課程 | | 博士課程 | | | |
|------------|------------|------|------|----------|----------|------|------|----------|----|------|
| | 有する大学(%) | 研究科数 | 平均 | | 有する大学(%) | 研究科数 | 平均 | | | |
| 1990(平成2) | 81 | 109 | 1.35 | 51(63.0) | 29(37.0) | 42 | 1.45 | 19(23.5) | 24 | 1.26 |
| 2000(平成12) | 89 | 143 | 1.61 | 40(44.9) | 48(54.0) | 79 | 1.65 | 31(34.8) | 46 | 1.48 |
| 2010(平成22) | 74 | 165 | 2.23 | 18(24.3) | 56(75.7) | 101 | 1.80 | 36(48.6) | 62 | 1.72 |
| 2015(平成27) | 73 | 180 | 2.47 | 16(21.9) | 57(78.1) | 108 | 1.89 | 36(49.3) | 61 | 1.69 |

注 1：東京女子医大は 1990 年と 2000 年には M 課程がなく、D 課程だけであった。よって、大学院なしと修士大学を足しても大学数にはならない。

注 2：博士課程有の％は、博士課程をもつ大学数を全体の大学数で除したものである。

出典：表 7 及び表 7 掲載の資料。

表 9. 4 年制大学の設置者別大学院設置率および研究科数の推移

| | | 私立 | 国立 | 公立 | 合計 |
|-----------------|------------------|-------|-------|-------|-------|
| 1990 (平成 2) | 大学数 | 372 | 96 | 39 | 507 |
| | 大学院設置大学数 | 195 | 95 | 23 | 313 |
| | 大学院設置率 | 0.524 | 0.990 | 0.590 | 0.617 |
| | 研究科数 (修士・博士前期) | 419 | 273 | 41 | 733 |
| | 一校平均研究科数 (M) | 2.15 | 2.87 | 1.78 | 2.34 |
| | 研究科数 (博士後期・一貫) | 318 | 192 | 32 | 542 |
| 2000 (平成 12) | 大学数 | 415 | 99 | 72 | 586 |
| | 大学院設置大学数 | 330 | 99 | 50 | 479 |
| | 大学院設置率 | 0.795 | 1.000 | 0.694 | 0.817 |
| | 研究科数 (修士・博士前期：M) | 751 | 376 | 101 | 1228 |
| | 一校平均研究科数 (M) | 2.28 | 3.80 | 2.02 | 2.56 |
| | 研究科数 (博士後期・一貫：D) | 531 | 295 | 64 | 890 |
| 2010 (平成 22) | 大学数 | 597 | 86 | 95 | 778 |
| | 大学院設置大学数 | 450 | 86 | 80 | 616 |
| | 大学院設置率 | 0.754 | 1.000 | 0.842 | 0.792 |
| | 研究科数 (修士・博士前期：M) | 1,150 | 433 | 172 | 1,755 |
| | 一校平均研究科数 (M) | 2.56 | 5.03 | 2.15 | 2.85 |
| | 研究科数 (博士後期・一貫：D) | 770 | 399 | 141 | 1,310 |
| 2015 (平成 27) | 大学数 | 604 | 86 | 89 | 779 |
| | 大学院設置大学数 | 463 | 86 | 78 | 627 |
| | 大学院設置率 | 0.767 | 1.000 | 0.876 | 0.805 |
| | 研究科数 (修士・博士前期：M) | 1,171 | 414 | 171 | 1,756 |
| | 一校平均研究科数 (M) | 2.53 | 4.81 | 2.19 | 2.80 |
| | 研究科数 (博士後期・一貫：D) | 817 | 396 | 133 | 1,346 |
| | 一校平均研究科数 (D) | 1.76 | 4.60 | 1.71 | 2.15 |

注：一校平均研究科数は、それぞれの研究科数を大学院を設置する大学数で割ったもの。

博士後期課程の場合、大学院設置大学であっても博士後期課程をもっていない大学もある。よってこの数字は、博士後期課程をもっている大学の平均数ではない。

出典：文部科学省（文部省）『学校基本調査』（政府統計の窓口より）。

た。それが25年後の2015年には73大学中36大学(49.2%)に設置され、61研究科を数えるにいたった。博士後期課程を設置する大学は女子大学が減少する中であっても倍近く増えており、研究科数は2.5倍になった。博士後期課程を設置する大学の平均研究科数は1.69となり、1990年の1.26よりわずかながら増加した。修士課程108研究科に対して、博士後期課程は61研究科であるので、単純計算をすれば、修士課程の研究科のうち、6割弱(56.5%)が後期課程を設置していることになる(表8)。国立大学は修士課程の414研究科に対し、博士後期課程は396研究科であり、ほとんどの研究科(95.6%)が博士後期課程を有している。公立大学は修士171研究科中133研究科(77.8%)、私立大学の場合は修士1,171研究科に対し博士後期817研究科となり(69.8%)で、いずれも私立女子大学の比率(56.5%)を上回る数字である(表9)¹¹⁾。

5. 考察

アメリカの女子大学が、1960年代に200校近くあったものが、現在では40校未満にまで減少しているのに対し、日本の女子大学は1998年に98校とピークに達し、その後漸減していったものの、現在77校の女子大学が存在している。以下、アメリカの女子大学との対比も行いながら、日本の女子大学がいかなる社会的状況の変化に対して、どのような戦略で対応し、日本的な発達を遂げてきたのかを考察する。

(1) 女子大学の増加と減少

まず、女子大学数の変化とその要因について比較していく。先に述べた通り、アメリカの女子大学は女子の進学率が上昇していく中で1960年代に200校前後となったが、60年代後半には様々な自由化・平等化が叫ばれ、共学化の波に飲み込まれた(安東2016; Studer-Ellis 1996)。1920~30年代より数を増やし、戦後飛躍的に増加したカソリック系女子大学は、ローマカソリックから1960年代前半に出されたVatican II¹²⁾によってカソリック系大学の世俗化が急速に進行し、その結果、閉鎖に追い込まれる、あるいは共学化するなどして、急速にその数を減らしていった(Rowntree 1994; Mahoney 2002など)。“Seven Sisters (セブン・シスターズ)”と呼ばれた歴史と権威のある女子大学のうち2校(VassarとRadcliffe)が共学化と吸収によって姿を消し、現在では、40校弱にまで減少している。

アメリカの女子大学とは異なり、日本の女子大学はWWⅡ後に初めて誕生した。戦前の中等・高等教育機関のほとんどが男女別学であったことも影響して、戦前の女子専門学校は、戦後の新教育制度下においても女子大学として開学したが多かった。1948年の5女子大学創設から徐々にその数を増やし、創設から50年後に最多の98校を数えるに至る。1960年代は、アメリカにおいて女子大学が急激に減少した時期であったのとは

対照的に、日本の女子大学は大きく数を増やした時期であった。第一次ベビーブームの世代が徐々に4年制大学へ進学するようになる中、これまでの旧制女子専門学校だけではなく、旧制の高等女学校を前身とする学校も女子大学を創設するなどして、1962年に42校であった女子大学は、1967年には80校へと一気に増加した(表1)。このように女子大学が増加した背景には、次のような社会的・心理的要因があったと考える。

戦後、別学から共学へと大きく転換する中で、別学を維持した私立の女子校には戦前の“お嬢様”という女子校への憧れが投影された。女子の大学進学率が低い中で、男子が多数を占める共学大学へ娘を進学させることに対して、親も女子学生も不安があった。男性の大学進学が就職や出世のためといった意識が強かったのに対し、女性の場合は、そうした意識は高くなく、嫁入り道具の一つとして教養をつけるとの意識が、特に親においては強かったと思われる。さらには、1960年代に共学大学を中心に学生運動が盛んになり、次第に政治色を強めて過激化していく中で、親は“嫁入り前の大切な娘”を学生運動にかかわらせたくないと考えことは一般的であった。そこで、大学に進学させるとしても学生運動が活発ではなかった“安全・安心な”女子大学に、親は娘を、教員は教え子を送り込んだ。戦後、「自由・平等」という言葉は踊っていても、親の世代にとっては伝統的な価値や規範は当然、根強く残っていた。

その後、女子大学では、継続的に共学化していく大学はあるものの、新設も相次いだことで漸増してゆき、1998年に98校となってピークを迎えたのである。これは、第二次ベビーブームの到来(1989~92年)、男女雇用機会均等法の施行(1986年)などの要因により女子の進学トレンドが短大から4年制へシフトしたこと、1991年の大学設置基準大綱化などにより、短大から4年制へと転換を図る学校が多かったためである。しかしその後の急速な18歳人口減少の中で、共学化する大学が相次いだ。短大からの転換を図り、設立される女子大学もあるが、それ以上のスピードで共学化する女子大学が増えた結果、女子大学は20年で約20校が減少した。それでも77校の女子大学が存在していることは、他国には見られない日本の大きな特徴である。

しかしながら、今後の動向については予断を許さない。1948年、49年に設立された大都市部の伝統校はほとんど共学化せず、学部数や学生規模を拡大しながら、着実に学生を集めている。これに対して地方に位置する女子大学や歴史の浅い女子大学については、学生集めに苦戦し、定員割れを起こしている大学も少なからず見られる。少子化がさらに進行する中、こうした女子大の中での分化はさらに加速していくことが予測される。

(2) 学生規模の拡大

次に、女子大学の学生規模の変化とその要因について検討する。アメリカの女子大学は、2011-12年のデータによると、フルタイム学部学生の平均が1,100名強であり、

1,000名以下の女子大学が過半数を占める。パートタイムを含めても学部段階の平均学生数は1,400名弱、最大でも3,830名であって、小規模な大学が多い（安東 2014）。むしろこうした少人数を維持し、きめ細かな教育指導、親密な大学コミュニティの形成を長所としてアピールにする女子大学が多い。大学院を有しない、有しても小規模な大学院をもつ大学が大勢を占めており、学生数の規模を大きくしようとする意志は強くないようだ。量的拡大の受け皿は州立大学に任せ、女子大学としての小規模できめ細かな教育指導、その伝統を強調することが多い。

これに対して日本では、女子大学（特に私立）は、共学大学と同様に量的拡大を実行してきた。先に見た1960年から1969年までの期間においては、非常に小規模で開学した大学が多かったこともあり、拡大規模は大きかった。次の1993年までの時期も、第二次ベビーブームによる文部省の臨時定員増の政策などもあって拡大を遂げ、大都市部には4,000名、5,000名を超える女子大学も出現する。その後も、女子大学の学生数は漸増しており、現状を維持しようとするよりも拡大志向が強かった。この背景には、日本の大学は財源のほとんどを授業料に頼っているという現状がある。施設や教育環境を整えようとするれば、ある程度のスケールメリットを持ち、余剰金を作って運用しないと、しっかりとした財政基盤を築けない。また、教育・研究環境の充実に資金を使用して、教育学習環境の充実を図らないと、学生も集まらないし共学校とも競争できない。アメリカのように基金や寄付による資金が豊富ではない日本の私立女子大学、特に競争の激しい大都市の女子大学にとっては、ある程度の規模拡大は不可避であった。ただ、女子の4年制大学進学者は、女子の短大から4年制大学へのシフトが進行して増え続けてきたが、4年制大学への進学が大部分を占めるようになり（女子進学者の85%程度）¹³⁾、今後、18歳人口は確実に減少していくので、拡大路線は難しくなる。学生の質を維持するために、ある程度、規模を縮小することも選択肢の一つになってこよう。

(3) 学部の増設・多様化

アメリカの女子大学は教養教育を中心とするリベラルアーツ・カレッジ（liberal arts college）が比較的多く、専門の学部には属するのではなく、一般に前半の2年で様々な分野の科目を履修し、後半の2年では主専攻と副専攻を選び履修する。リベラルアーツで学生を集められなくなった女子大学は、看護などの専門学部や職業プログラムをもつようになり、そうした大学は少数派ではなくなってきた。アメリカの場合、専門職は大学院で養成されるので、大学での教育は大学院に進むための基礎教育という位置づけがなされているという事情もあり、威信の高い女子大学ほど、リベラルアーツ教育を貫いている場合が多い（安東 2014）。

日本の大学はリベラルアーツのプログラムを履修するのではなく、専門学部に入學す

る。とはいえ、大学設置基準大綱化以前、2年間の一般教養が課されていた頃の文理学部や学芸学部、教養学部などは、アメリカのリベラルアーツに近かった。日本の女子大学の場合、上記のような学部とともに、家政学部が創設当初から設けられていた。これは被服、住居、食物栄養など、実用的な内容を学習する学部であるが、ある意味、嫁入り前に身につける“習いごと”や“教養”という意味もあった。その後、1990年までには、薬学や体育学、音楽学などを創設した大学もあるが、大部分は教養系の文学部や人文学部と、家政系学部であった。

1990年代から2000年代に、学部の増設・多様化が進行するが、その大きな節目となったのが、繰り返し述べてきた1991年に始まる大学設置基準の大綱化であり、その一環として2003年に始まる学部・学科等の設置における届出制の導入（但し、学位の種類・分野に変更のないもの）などである。旧来の学問分類による学部構成から、学生や社会的なニーズに基づいた学部創設の方向付けとそれを可能にする規制緩和が始まるとともに、教養教育よりも各学部での専門教育が強調されるようになっていった。その結果、現代社会や社会情報などの社会科学や情報系の学部、学際的で問題解決型の総合政策学部、国際を冠し英語等の習得など国際性を強調した学部が次々と創設され、既存学部からの転換が図られた。女子大学においては、国際や文化、情報を冠した学部の創設がなされたり、家政学部という名称が“良妻賢母”のような古いイメージがあるということで、生活科学部や生活環境学部に名称変更されたりした。

これに加え、1990年代以降においては様々な社会的要因が学部の改変・増設を後押しした。1992年、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の施行に伴い看護教育の大学化が急速に進められていった。女性が圧倒的多数を占める看護師の養成は、女子大学にとって確実に学生を獲得できる格好のターゲットであり、多くの大学が看護学部の増設を図った。さらに2006年には薬学部における薬剤師養成が4年制から6年制になり、その少し前からの規制緩和により、それまで抑制されていた薬学部新設が緩和されていた。薬剤師も女性が多い専門職であるため、大都市部の女子大学が数校、薬学部の創設を行った。また、女性比率の高い専門職である小学校教員の養成に乗り出す女子大学も多く現れた。これは、1970年代に大量採用された学校教員の退職に伴う教員需要が2000年を過ぎた頃から大幅に伸びる中、2005年3月に「教員分野に係る大学等の設置又は収容定員増に関する抑制方針」が撤廃されたことによる（山崎 2014）。これにより、小学校教員の養成が私立大学でも比較的容易にできるようになり、教育学部や子ども学部、あるいは学科として小学校教員養成課程をもつ女子大学が増加していった（表4、表6）¹⁴⁾。

これまで女子大学にはなかった、社会科学系の学部も増えた。共学大学の伝統校でも、経営学部や商学部、法学部といった社会科学系学部に女子学生が増え、今日、有名私立大学でも4割前後を女子学生が占めるまでになっている。女子学生の就職も企業への就職

が大部分を占め、それに関する専門知識が求められるようになる中で、女子大学にも社会科学系の学部が創設されるようになった。しかし、法学、経済学、商学といった伝統的な学部ではなく（但し、京都女子は2011年に法学部設置）、経済や経営、法律の他、情報や心理なども含む学際的で折衷的な内容の社会科学系学部がつくられた。

活発に学部・学科が増設された背景には、第二次ベビーブーム（1989～92年大学入学者）後の18歳人口の急激な減少、さらにはバブル経済崩壊後、特に1990年代後半の雇用の不安定化の進行とそれに伴う受験生、特に女子受験生の資格志向の高まりといった社会情勢の変化がある。こうした流れを受けて、女子学生の獲得をねらい、看護師、薬剤師、教員、あるいは管理栄養士といった資格を付与する実用志向の学部や学科を、女子大学は積極的に設立していった。伝統的な教養志向の女子大学も、こうした実用的学部を創設し始めたのである¹⁵⁾。これに対して、理系の学部は極めて少なく、工学系・農学系は皆無である。

文学系と家政学系がほとんどを占める時期が長くあったが、男女雇用機会均等法の施行（1986）や大学設置基準の大綱化（1991）、1993年頃から2000年半ばにかけての就職氷河期、女子学生の進路の多様化や資格志向の高まり、さらには18歳人口の急速な減少といった実に様々な社会状況の変化が1990年頃より矢継ぎ早に生じた。こうした中、女子学生の興味を引き付ける最大公約数となる学部・学科を検討し、その結果、女子大学が実用志向の学部を中心に多様な学部を設立していったのである。しかしながら、その範囲はまだまだ限定されている。

（4） 大学院の拡大

2011-12年におけるアメリカの女子大学44大学のうち、大学院をもたない大学が10校（22.7%）、大学院をもつ大学が34校（77.3%）、さらに博士課程をもつ大学は12大学（27.2%）を数える（安東 2014）。大学院をもつ大学は増えており、大学院生の数が学部制の数を上回る大学が5校あった。

これに対して、2015年度の日本の私立女子大学は、73校中59校（78.1%）が大学院をもっており、アメリカとほぼ同じ割合である。博士課程をもつ大学は36校（49.3%）で、アメリカの比率を大きく上回る。国公立4校は全て大学院を有し、うち3校は博士課程をもっているため、その比率は若干上昇する。

しかしながら、大学院生の数とはいうと、学部学生数はおろか、その半数に達する大学はない。長期履修制度などにより、大学院生の在籍者数は多少増えたように見えるものの、ほとんどの大学院では、募集定員を集めることができていない（アエラムック 2015など）。このような状況は、共学大学でも同様である。工学系を除き、大学院の修了が就職や職場での昇進に結びつきにくい日本においては、大学院に学生を集めることは難し

く、女子大学の院生数は学部生の5%にも満たないのが現状である¹⁶⁾。大学院は大学の経営面には寄与しないにもかかわらず、8割程度が大学院を持ち、約半数が博士課程を擁している。この背景として、1991（平成3）年に大学審議会答申「大学院の量的整備について」で2000（平成12）年度までに大学院学生数を2倍程度に増やす提言がなされ、それに沿って大学院の設立、拡充が推進されていったことがある。さらには、臨床心理士資格認定協会による臨床心理士養成大学院指定制度が1996年から始まり、心理系専攻を置く大学院の創設が進んだことも後押しした¹⁷⁾。国による政策的誘導を基盤に、人気資格授与という実利、高度な研究教育水準を示す権威づけ、競合大学との競争・横並び意識などが相まって大学院設置率は大きく伸びたが、その一方で定員確保の困難さやそれに伴う財政的負担、大学院修了生の就職問題、学部教育を主とし大学院教育が付け足しのようによられることによる教員負担の増大などは、私立女子大学には限らず、私立大学全体の課題である。

おわりに

本論文では、1948年に日本で女子大学が誕生して後、今日までどのように発展・変化してきたかを、私立女子大学を中心に、主に量的側面から概観してきた。現在取り組んでいる科学研究費研究において、アメリカおよび韓国の女子大学との比較を行うための基礎作業と位置付けている。

1990年まで、女子大学の学生数は徐々に増えつつも、学部構成においては文学・教養系学部と家政系学部からなるという構造は変わらないままであった。そうした状況は、1991年の大学設置基準の大綱化という政策誘導により、学部の増設・改変、大学院の創設など、大きく変化していくことになった。さらに、18歳人口の減少の中にあって女子の4年制大学進学者は増加するものの、私立大学数が大幅に増加し女子受験生獲得競争が激化する。1990年代後半に大学卒業生の雇用が不安定になる中、特に女子受験生の資格志向が強まっていく日本独自の社会状況変化が加わり、女子大学はこれに応じた柔軟なサバイバル・発展戦略を展開していった。その結果、厳しい状況の中で共学化していった大学も多いが、私立73校、国公立4校の77校、4年制大学の実に1割が女子大学として存続しているのであり、日本の大学構造の大きな特徴の一つとなっている。

本論文では70年に及ぶ日本の女子大学の変化を、量的側面から大まかに示すことができた。今後はさらに、女子大学の属性や特性を考慮した質的分析を進めていくとともに、アメリカ及び韓国の女子大学との比較検討を行う。

注

1) 「学校基本調査」の「高等教育機関」カテゴリーの「大学・大学院」にある「表2. 類型

別数」には「女子のみ」の分類があり、平成 28 年度では 76 校が「女子のみ」の女子大学とされている (<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001079879&cycocode=0>)。しかしこれには数字のみが示されており、どの大学を女子大学としてカウントしているのかわからない。武庫川女子大学教育研究所では、「女子大学統計・大学基礎統計」を公開しており、その表 1 において、どの大学を女子大学としているかを経年で示している (<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoken/jyoshidai.html>)。よって本稿においては、日本の女子大学数については、本研究所のデータを用いることとする。

- 2) The National Center for Education Statistics HP
(https://nces.ed.gov/programs/digest/d15/tables/dt15_317.10.asp)
- 3) Women's College Coalition HP
([http://www.womenscolleges.org/colleges?field_college_degree_type_tid \[0\]=177WCC](http://www.womenscolleges.org/colleges?field_college_degree_type_tid%5B0%5D=177WCC))
- 4) Korean Education Statistics Service HP (下記アドレス) 及び、安東 (2013)。
(http://kess.kedi.re.kr/eng/publ/publFile/pdfjs?survSeq=2016&menuSeq=3894&publSeq=4&menuCd=69296&itemCode=02&menuId=3_1&language=en)
- 5) OECD の『図表でみる教育 2016 年版』によれば、高等教育の学士課程 (短期高等教育を除) 卒業者の女性比率は、OECD 平均が 58% で、男性より 16 ポイントも高いのに対し、日本は 45% で男性より 10 ポイントも低い (2014 年のデータ)。
(<http://www.oecd.org/education/skills-beyond-school/EAG2016-Japan.pdf>)
- 6) 表 1 にあるように、1993 年のデータでは、学生数が示されていない女子大学が 3 校、完成年度を迎えていない女子大学が 1 校ある。よって、女子大学の学生比率はここで示す数字よりも、少し上昇する。
- 7) 武庫川女子大学教育研究所 HP の「女子大学データ」表 1 参照。武庫川女子大学教育研究所では、2004-2006 年度に「女子大学の存立意義に関する調査研究」を共同研究として行い、そこで作成した女子大学に関する量的データベースを教育研究所の HP に掲載し、毎年、データの更新を行っている。本論文のデータの一部は、このデータベースを利用している。(<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoken/jyoshidai.html>)
- 8) 看護学部の 1 学年当たりの学生定員は 100 名前後、80 名定員の学部も多く、学生規模が小さいこと、厚生労働省の規定により 1 教員当たりの学生数が少なく、経費も掛かることなどから、複数学部を擁する場合、大学経営に対する財政面での貢献は大きくないとの指摘もある。
- 9) 1986 年の臨時教育審議会第二次答申には「大学院の飛躍的充実と改革」との項が設けられ、大学院の改革と拡大が喫緊の課題だとした。これを受けて、大学審議会は、1989 年に「大学院制度の弾力化について」(答申)、1991 年には「大学院の整備充実

について」(答申)と「大学院の量的整備について」(答申)を矢継ぎ早に出すなどして制度改革や量的拡大の政策を提言していき、大学院の拡大が始まった(黒羽 2001, 2002)。

- 10) 文部省「学校基本調査」によれば、1974年の大学院設置基準の制定以降、研究科数が以前より大幅に減少し、厳しい選別がなされた。その数が安定してくるのは1980年代半ば以降である。ここでは1990年以降を取り上げた。また、女子大学の大学院を取り上げているが、女子大学の大学院は女子のみを対象とはせず、共学となっている場合が多い。
- 11) 表8にある女子大の1校平均が博士後期課程を設置する大学数を分母にしているのに対し、表9に示す設置者別の1校平均の博士後期課程研究科数の分母は、修士課程のみを含めて大学院を設置する大学であり、平均の基準が異なるため、ここでは参考として示しておくにとどめる。
- 12) ローマカソリックのヨハネ23世のもと、1962年から65年にかけて4回開催された第二ヴァチカン公会議は、東西冷戦や物質文明の進展などにより世界が大きく変化していく中で、ローマカソリックの現代化を目指した。実社会との乖離が続けば信者が減少するといった危惧から、カソリック教会として、社会の変化に対応した現実的な政策を打ち出そうとしたのである(松本 2013; 木鎌 1994)。この会議で打ち出された方針により、アメリカのカソリック系高等教育も大きな影響を受けることとなった(Rowntree 1994)。
- 13) 文部科学省『平成28年度学校基本調査』の高等教育機関の「表15 関係学科別大学入学者状況」(大学)と「表39 関係学科別入学状況」(短大)より算出した。
(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001011528>)
- 14) 山崎(2014)によれば、私立大学で小学校教員養成の認定課程をもつ大学数は、2000年に40校、2005年に50校であったものが、2010年には145校に急速に増加している。2016(平成28)年4月時点で、私立大学の180校で小学校教諭一種免許状を授与でき、そのうち45校が私立女子大学である(通学制のみを含む)。(文部科学省「小学校教員の免許資格を取得することのできる大学」2017.1.15取得)
- 15) 全体としてこのような傾向が強いが、1948年に他大学よりも早く大学となった5女子大学(津田塾、日本女子、東京女子、聖心女子、神戸女学院)は、実務的、資格志向の学部を増やさず、基本的に教養教育を貫いてきた。東京女子は短大を4年制に編入して文理学部と現代文化学部の2学部体制となったが、2009年にこれらを統合し現代教養学部のための1学部とし、教養回帰を行った。
- 16) 伝統があり、入試難易度が高く、博士課程をもつ津田塾、東京女子、日本女子の大学院在籍者と学部生在籍者の比率(院生合計÷学部生合計)をみると、順に3.0%、

2.6%、4.7%であった。私立で5%を上回るのは、東京女子医科の16.5%くらいである。国立では、お茶の水が43.0%、奈良女子が26.5%と高い値となっている。以上の計算は、アエラムック『大学ランキング 2016年版』掲載の、2014年度の学部学生数、大学院学生数に基づいて計算を行った。(アエラムック 2015)

17) 2016年時点で、日本臨床心理士養成大学院協議会の会員校になっている私立女子大学は29校にのぼる。(http://www.jagpcp.jp/member.html)

引用文献

- アエラムック教育編集部 1994, 2001, 2016, 『大学ランキング (1995年度版、2002年度版、2017年度版)』朝日新聞社 (※編集者名称が変化しているため、最新名称)
- 安東由則 2013, 「韓国における高等教育政策の動向と大学の現況」『研究レポート』43号, pp.53-88.
- 安東由則 2014, 「アメリカにおける女子大学のプロフィールと現状」『研究レポート』44号, pp.59-88.
- 安東由則 2016, 「アメリカにおける女子大学の動向 (1): 19世紀から1970年代まで」『研究レポート』46号, pp.83-102.
- 文教協会 2002-2015, 『大学一覧』文教協会
- 木鎌安雄 1996, 『カトリックとアメリカ』南窓社
- 黒羽亮一 2001, 『戦後大学政策の展開』玉川大学出版部
- 黒羽亮一 2002, 『大学政策: 改革への軌跡』玉川大学出版部
- 真橋美智子 2012, 「新制女子大学の誕生までの経緯と初期の女子大学: 日本女子大学の例を中心に」『日本女子大学紀要 (人間社会学部)』23号, pp.13-28.
- Mahoney, Kathleen A. 2002, "American Catholic Colleges for Women: Historical Origin." In Tracy Schier & Cynthia Russett (Eds.). *Catholic Women's Colleges in America*. Baltimore: MD. The Johns Hopkins University Press. pp.23-54.
- 松本佐保 2012, 『バチカン近現代史: ローマ教皇たちの「近代」との格闘』
- 文部省監修 1961, 1970, 1980, 1990, 『全国学校総覧 (昭和36年度版、昭和45年度版、昭和55年度版、平成2年度版、)』原書房
- Rowntree, Stephen C. 1994, "Ten Theses on Jesuit Higher Education." *America* 170 (19), pp.6-12. (http://www.bc.edu/content/dam/files/offices/mission/pdf1/ju12.pdf)
- Studer-Ellis, Erich M., 1996, *The Social Transformation of Four-Year U.S. Women's Colleges, 1960 to 1990*, Dissertation to Department of Sociology, Duke University.
- 山崎博敏 2014, 「中国四国各県における教員供給体制—過去と近未来」『教育学研究

ジャーナル』（中国四国教育学会）14号，pp.27-34.
全国学校データ研究所編 各年，『全国学校総覧』原書房

ネット資料

Korean Education Statistics Service HP

(http://kess.kedi.re.kr/eng/publ/publFile/pdfs?survSeq=2016&menuSeq=3894&publSeq=4&menuCd=69296&itemCode=02&menuId=3_1&language=en)

文部科学省（文部省）各年『学校基本調査』（「政府統計の総合窓口（e-Stat）HP」）

(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001011528>)

文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室「ここまで進んだ大学院教育改革―検証から見える成果と課題―」

(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2012/10/23/1299723_01.pdf)

文部科学省 HP 「小学校教員の免許資格を取得することのできる大学」

(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2016/12/27/1287044_1.pdf)

武庫川女子大学教育研究所 HP 「女子大学統計・大学基礎統計」

(<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoken/jyoshidai.html>)

The National Center for Education Statistics

(https://nces.ed.gov/programs/digest/d15/tables/dt15_317.10.asp)

日本臨床心理士養成大学院協議会 (<http://www.jagpcp.jp/member.html>)

OECD「図表でみる教育 2016年版」

(<http://www.oecd.org/education/skills-beyond-school/EAG2016-Japan.pdf>)

総務省 HP 日本の基礎統計「第25章 教育」『日本の統計 2017』

(<http://www.stat.go.jp/data/nihon/25.htm>)

津田塾大学 HP 総合政策学部紹介サイト (<http://fcpd.tsuda.ac.jp/>)

Women's College Coalition HP

([http://www.womenscolleges.org/colleges?field_college_degree_type_tid \[0\]=177WCC](http://www.womenscolleges.org/colleges?field_college_degree_type_tid [0]=177WCC))

※ 1. 上記ネット資料の他、必要に応じて女子大学の HP にある年表などを参照したが、女子大学の HP アドレスについては割愛している。

※ 2. 上記ネット資料については、2017年2月27、28日に、アクセスしなおし、所在を確認した。

付記 本研究は、平成 27-30 年度科学研究費基盤研究 (C) 「女子大学の存立意義とサバイバルストラテジー：日本・アメリカ・韓国の国際比較」(代表・安東由則、課題番号 15K04327) による成果の一部である。